

■ サステナブルファッション・パートナー会員一覧（全121団体：令和8年10月5日時点）

|    |     |
|----|-----|
| 企業 | 89社 |
|----|-----|

| NO. | 参加団体名                 | 事例タイトル                                 | 取組概要及び目標設定等並びに今後取組予定の事業                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 取組概要（URL）                                                                                                                                                                                     |
|-----|-----------------------|----------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1   | アイトス株式会社              | ユニフォームの未来を設計と見える化から働く人と企業の環境配慮に定めるアイトス | アイトスは、ユニフォームのライフサイクル全体で環境負荷を低減する循環型ものづくりを推進しています。中核となるのが経済産業省「繊維製品の環境配慮設計ガイドライン」に業界で初めて準拠した「易リサイクル設計」です。生地をポリエステル100%とし、ボタン等の副資材にもPETリサイクル可能な部材を採用することで製品をまるごと効率的に再資源化できる設計を実現。さらにISO 14067に準拠したCFP（カーボンフットプリント）を算出し、総合カタログ掲載商品（セーフティスニーカー・仕入製品等を除く）のCO <sub>2</sub> 排出量を開示することで環境負荷が見える化し、ユーザー様がカーボンニュートラルに取り組む一助となる情報提供を行っています。また、独自の「サステナブルセクション」を設定し、環境配慮素材・安全性・快適性等をアイコンでカタログに表示。環境配慮設計11項目を指針に、再生・植物由来素材の活用、長期使用、水資源・安全性への配慮、廃棄物・包装材・繊維くずの抑制を推進しています。さらに「AITOZ/BRING UNIFORM」による使用済みユニフォームの回収・再資源化にも取り組み循環型社会の実現を目指しています。                  | <a href="https://www.aitoz.co.jp/aozora/">https://www.aitoz.co.jp/aozora/</a>                                                                                                                 |
| 2   | 株式会社明石スクールユニフォームカンパニー | 学校制服のリユース・リサイクル                        | 当社は、繊維のまち「倉敷市児島」に本社をかまえ、小学校・中学校・高校の制服の製造・販売を手がける学校制服メーカーです。持続可能な社会の実現に向けた取組として、2025年6月に学校制服のリユース・リサイクル事業「Re-Ring AKASHI（リリング アカシ）」を開始しました。自社製の制服を回収した後、状態を確認してリユース用とリサイクル用に分別。リユース用は、洗浄後に細部までチェックして傷や壊れた部分を補修して、アイロンをかけて新品同様の姿へと再生し、手頃な価格で販売します。一方、リサイクル用は、繊維リサイクルで実績のある会社を通して原料のレベルまで分解し、100%再資源化します。取組開始のきっかけは、学校の先生方の「制服の価値を守りたい」というひと言でした。近年、衣服のリユースが身近になった反面、一部において、公序良俗に反する団体に制服が出回る事案が発生しており、社会問題となっています。そうしたトラブルから学校・保護者・生徒の皆様を守り、安心してご利用頂ける質の高いリユース・リサイクルとして、全国の学校に提案を進めています。思いにご賛同頂き、現在170校にご採用頂いています。                                 | <a href="https://citysales.city.kurashiki.okayama.jp/special/vol65-01/">https://citysales.city.kurashiki.okayama.jp/special/vol65-01/</a>                                                     |
| 3   | 有限会社イーエムアイエーステート      | 子ども服からつなぐやさしい循環                        | 弊社が運営している子供服ショップJanecollectionは「着ることを、社会へのやさしさに。」を理念に、子ども服を通じて環境と社会の双方に配慮した持続可能な消費の選択肢を提案しています。長く大切に着られるデザインや、オーガニック素材・環境負荷に配慮した商品を積極的に取り扱うとともに、不要になった子ども服を回収し、提供者への割引クーポン発行などを通じて、衣類を捨てずに循環させる仕組みづくりに取り組んでいます。また、売上の一部を里親家庭等の子どもたちを支援する活動へ寄付し、ファッションを社会貢献につなげています。今後は古着回収・再利用の仕組みをさらに拡充し、回収量や再利用実績の可視化、サステナブルな商品の取扱比率向上、SNSやイベントを通じた情報発信・啓発活動を継続します。子どもたちが「ものを大切に使い、次の人へつなぐ」ことを自然に学べる循環型ファッションの定着を目指します。                                                                                                                                        | <a href="https://jane-collection.jp/">https://jane-collection.jp/</a>                                                                                                                         |
| 4   | イーベイ・ジャパン株式会社         | 越境ECを通じたファッションアイテムの適正な海外リユース促進         | eBayは、日本のセラーと世界の買い手をつなぐグローバルマーケットプレイスとして、日本国内で流通・保有される衣類、バッグ、靴、アクセサリー等のリユース品が海外の新たな利用者へ渡る機会を提供しています。創業以来、リコマースを事業の中核の一つと位置付け、中古品・リユース品の再流通を通じた製品寿命の延伸と循環型経済の促進に取り組んでいます。また、日本で大切に使用・管理されてきたリユース品の品質や価値を「Used in Japan」として海外需要につなぎ、適正な海外リユースを促進しています。国内では次の利用者を見つけにくい商品も、海外需要とつなぐことで再使用の機会を広げ、廃棄回避や長期利用に貢献します。今後は、セラー向けウェブサイト、メール、イベント等を通じ、使用可能な衣類等を次の利用者につなぐ意義や、適切な商品情報・状態表示等を含む信頼あるリユース取引について発信を強化します。また、環境省のキャンペーンやパートナー企業・団体との連携を通じ、国内外のリユースの好事例や知見を共有し、サステナブルファッションに関する理解促進と行動変容に貢献します。                                                      | <a href="https://ebayglobaladvocacy.com/ja/reports/used-japan-kashijienihirakuriyusunokenengxing">https://ebayglobaladvocacy.com/ja/reports/used-japan-kashijienihirakuriyusunokenengxing</a> |
| 5   | 株式会社ITOHA             | 縫い糸まで土に還る服。回収して畑に還し、次の作物を育てる           | ITOHAは和紙を主素材とするアパレルブランドです。企画は出口から逆算し、表地だけでなく縫製糸・刺繍糸・ネーム・梱包まで土に還る素材で揃えています。生地が還る素材でも縫い糸とネームが化学繊維なら埋めても残るためです。生産では受注生産も取り入れ、つくり過ぎを抑えます。販売では一着ごとのカーボンフットプリントを原材料・製造・流通・使用・廃棄の5段階で算定し公開します。着用では、加工に頼らない和紙本来の抗菌・吸湿速乾・通気性を活かします。回収では、着終えた衣服を回収し、自社農地や協力農地の土に還します。目標は、焼却される衣服を減らし、還した土で作物を育てる循環を広げること。このブランドが環境貢献と選択肢のひとつとなり、インパクトを出すには、生活者の行動変容の促進がミッションとなります。今後は法人向けユニフォーム・ノベルティへの展開と、自治体・農家との連携による還元先の拡大に取り組めます。                                                                                                                                     | <a href="https://itoha.org/">https://itoha.org/</a>                                                                                                                                           |
| 6   | 株式会社inside and out    | 長く愛される服と循環を育てるファッション事業                 | 株式会社inside and outでは、流行を過度に取り入れず、長く愛着を持って着続けられるデザインと品質を大切にした衣服の企画・販売を行っています。リサイクル素材を使用した商品や、デニム等を活用したリメイク商品の企画にも取り組み、衣服の価値を長くつなぐものづくりを推進しています。また、スタイリング、イメージコンサルティング、ファッションコンサルティングを通じて、生活者が自分に合う衣服を選び、手持ちの服を活用しながら長く大切に着るための提案・発信も行っています。今後は、ものづくりと生活者への提案の両面から、衣服を長く楽しみ、循環させる選択肢を広げる活動を強化していきます。                                                                                                                                                                                                                                               | <a href="https://insideandout.tokyo/">https://insideandout.tokyo/</a>                                                                                                                         |
| 7   | VIEVON合同会社            | 世界初のバイオテクノロジーによるバイナップル繊維メーカー           | 私たちは、2020年よりバイナップル葉繊維およびマスターバッチの研究・開発に取り組んでいます。農業廃棄物を新たな資源として活用し、100%グリーンかつ生分解性を備えた素材づくりを通じて、持続可能な社会の実現を目指しています。私たちは、バイオテクノロジーを活用することで、これまで廃棄されていた農業資源に新たな価値を与え、環境に配慮した製品へと再生しています。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | <a href="https://www.vievon.co.jp">https://www.vievon.co.jp</a>                                                                                                                               |
| 8   | 株式会社エイチ・カツカワ          | エシカルは、最高のモード。修理と実証でつくる衣類の循環            | 株式会社エイチ・カツカワ（2007年創業）は「エシカル＝現代における最高のモード」を掲げ、衣服の企画・生産から販売・着用・修理・回収まで全工程で循環を実践するエシカルブランドです。2024年、靴ブランド＋修理店として国内初のB Corp認証を取得。廃棄される原皮部位を昇華した独自素材NIBE LEATHER®は、英国ノーザンプトン博物館に東洋人初の永久収蔵。日本初のアニマルウェルフェアレザー「AWL」では「いただいた命の分だけ作る」を実践します。2010年開業の修理事業The Shoe of Lifeは累計6万足以上を再生し、「使い捨ては合理性、修理は人間性」の思想で捨てる選択肢を減らしてきました。Pen Online連載等でエシカルを説教でなく実証（B Corp・第三者認証・数値）として発信し、生活者の意識醸成と行動変容を促進。今後もリペアを核にリユース・長寿命化・普及啓発を進め、官民連携で循環型ファッションの社会実装に貢献します。                                                                                                          | <a href="http://hkatsukawafromtokyo.net">http://hkatsukawafromtokyo.net</a>                                                                                                                   |
| 9   | 株式会社エー・ディー・ピー         | 使用済み転写紙のRPF化とB反・余剰品の循環利用による製造廃棄物ゼロ化    | プリント等の衣服加工プロセスにおける徹底した資源循環と、廃棄物ゼロ（ゼロエミッション）の本格的な実現に挑む。①環境負荷の可視化に向けて、全プリント製品のカーボンフットプリント（CFP）算出をいち早く導入し、取引先や消費者へ客観的なCO2データを提示して環境負荷の低いエコな購買行動を直接支援する。②エコテックス認証インクやバイオマス資材の採用により、製造プロセスの上流から低炭素かつ安全なものづくりを徹底する。③未利用B反生地地の100%再利用、使用済み昇華転写紙やB品・余剰衣料の分別回収および高品位固形燃料（RPF）化（サーマルリサイクル）による工場廃棄物ゼロ（ゼロエミッション）化フローを推進。④今後の新規事業として、生活者の古着や流通デッドストック衣料にデザインプリントやリメイク加工を施し、衣類の寿命を最大化するアップサイクル受託サービスを拡大する。2030年までにリメイク年間5,000着、工場廃棄物のRPF化率100%を目標に設定し、持続可能なファッションの社会実装に貢献する。                                                                                   | <a href="https://adp3000.com/">https://adp3000.com/</a>                                                                                                                                       |
| 10  | 株式会社ECOMMIT           | 不要品の回収・選別・再流通を一通貫で行うサービス「PASSTO（パスト）」  | P A S S T Oは、株式会社E C O M M I Tが提供する、不要品の「回収」、最適な使い道の「選別」、不要品を再活躍させる「リユース・リサイクル」の循環をつくる、あたらしい仕組みです。郵便局、ショッピングセンター、レジデンスなど身近な生活接点に不要品回収ボックスを設置しているほか、日常的に利用されているL I N Eから集荷を申し込み、自宅にいながら無料で不要品を手放すことができる宅配P A S S T Oも提供しています。回収された不要品は、全国7箇所のサーキュラーセンターに届け、100種類以上の品目に選別、顧客ニーズに合わせて優先的にリユース品として再流通させ、リユースに不向きな製品でも素材等に応じてリサイクルし、徹底的に資源循環させることを追求しています。現在、P A S S T Oは不要品を手放す「アクセシビリティ」を高めるだけでなく、アパレルブランドやリサイクル技術を持つパートナーと連携し、生活者が循環に参加したくなる「インセンティブ設計」にも挑戦しています。「手放しやすい」から、「手放したくなる」へ。P A S S T Oは、生活者の行動と企業のものづくりをつなぎ、より多くの資源が循環する仕組みづくりを進めています。 | <a href="https://www.passto.jp/">https://www.passto.jp/</a>                                                                                                                                   |

| NO. | 参加団体名                             | 事例タイトル                                   | 取組概要及び目標設定等並びに今後取組予定の事業                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 取組概要（URL）                                                                                                           |
|-----|-----------------------------------|------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 11  | 株式会社エストネーション                      | 衣類やビニール等回収・資源化し課題解決するKAISHU SOLUTIONSを運用 | エストネーションでは、衣類だけでなく残布やハンガー、アパレルビニール等様々な品目の回収・分別を担い、資源化させ社会課題を図るKAISHU solutionsを運用しております。衣類では、店舗で回収キャンペーンを実施。自社ポイントを付与し、お客様のご来店を促しております。2026年度中に全店舗で衣類回収CPを実施する目標を設定。また、お直しの際発生する残布や商品企画時のサンプル生地も回収・分別し、他会社のギフトリボンの素材として販売しております。<br>また、エストネーションブランドの製品は、2030年までに、環境に配慮した素材を30%採用という目標を掲げています。回収という出口戦略だけでなく、お客様に良いものを長く着ていただくことを製品づくりの理想とし、環境配慮設計ガイドラインの活用も行っております。事業としては、モノ売りだけでなく、洋服の定額レンタルサービス（サブスク）等も展開しております。サブスクで利用された商品は廃棄せずにリユースも実施しております。今後は、店頭で回収したエストネーションブランドの製品のリユースも実施予定であり、エストネーションらしい資源循環の構築を目指しております。 | <a href="https://www.estnation.co.jp/onesmall/roadmap/">https://www.estnation.co.jp/onesmall/roadmap/</a>           |
| 12  | X Cube Solutions株式会社              | 混紡素材分離技術研究開発と証明                          | 1.繊維to繊維マテリアルリサイクル技術の確立（Create）<br>古着や裁断くずからコットンとポリエステルなどを分離し、再び繊維の原料として利用可能にする化学反応を伴うマテリアルリサイクル技術の確立に取り組みます。※技術名：Green Material Technology<br>2.リサイクル材であることの証明（Connect）<br>パブリックブロックチェーン基盤上に、秘匿情報の暗号化とアクセス制御の仕組みを備えたアプリケーションを構築し、リサイクル材であることの証明データを、必要な相手にだけ選択的に開示できるトレーサビリティの実現性を検証します。※技術名：Musubi powered by Coral<br>3.企業・ユーザーの受容性評価（Collect）<br>店舗での古着回収の実証や、アパレル企業・生活者へのヒアリングを通じて、サービスとしての利用意向・回収率・運営効率などを評価し、ビジネスモデルを精緻化します。                                                                                    | <a href="https://x-cube-solutions.com/">https://x-cube-solutions.com/</a>                                           |
| 13  | 株式会社 オークネット                       | BtoBプラットフォームを活用したアパレル商材のリユース推進と循環型社会への貢献 | 弊社は、ブランド品やアパレル商材を含む二次流通品を対象としたBtoB（企業間）オークションプラットフォームを運営しています。独自の検査・評価ノウハウを活用し、品質が担保されたファッション商材の適正な価格形成と円滑な流通をオンラインで促進することで、衣類等の廃棄削減とリユースの推進に貢献しています。【目標設定・今後の取組】今後もBtoBリユース市場の拡大を牽引し、衣類やブランド品の流通量を継続的に増加させることで、より多くのファッション商材が次の利用者へ引き継がれるサーキュラーエコミー（循環型社会）の基盤を構築します。また、参画事業者への啓発活動や流通データの活用を通じて、サステナブルファッションの重要性を広く発信し、業界全体での環境負荷低減を目指してまいります。                                                                                                                                                                        | <a href="https://www.aucnet.co.jp/">https://www.aucnet.co.jp/</a>                                                   |
| 14  | 株式会社 お宝創庫                         | 衣類の買取・再販売を通じた地域のリユース促進                   | 株式会社お宝創庫は、衣類を取り扱う店舗において、家庭で不要になった衣類の買取・再販売を行っています。<br>また、ジモティースポット半田では、まだ使用できる衣類等を地域の方から引き取り、必要とする方へ再提供することで、地域内でのリユースを促進しています。<br>これらの取組を通じて、衣類を捨てずに次の利用者へつなぐ機会を提供しています。<br>本取組では、衣類のリユース利用の拡大と、廃棄される衣類の削減への貢献を目指します。<br>今後は、衣替えの時期を中心に、店頭掲示や自社ホームページ、SNSを通じて、衣類の買取・持込みとリユース衣類の利用を呼びかけます。<br>衣類の買取・引取・販売等の実績や周知活動の実績を把握し、取組の振り返りと改善につなげていきます。                                                                                                                                                                         | <a href="https://www.otakarasouko.com/fashion/#gsc.tab=0">https://www.otakarasouko.com/fashion/#gsc.tab=0</a>       |
| 15  | お直しコム                             | 愛用のアイテムを、一日でも長く着ていただく為に                  | 当店では洋服お直し事業を通じて、ファッションアイテムの長寿命化と安易な廃棄削減に取り組んでいます。<br>1.長期使用を促す洋服お直しを提供<br>裾上げやウエスト出し等のサイズ調整、またファスナー交換・キズ補修等のお直しサービスを通じて、お気に入りの一着を少しでも長く使い続けていただける環境を提供しています。<br>2. リメイクでアップサイクル<br>裾が破れてしまったジーンズをハーフパンツにリメイクする等、問題が生じたアイテムを新しいアイテムに生まれ変わらせます。廃棄リスクの高いアイテムに、新しい価値を与えています。<br>3. ネットを通じた発信<br>当店ウェブサイトやコラム、SNS等を通じて、上記活動について広く発信。一般消費者でも理解できるよう、分かりやすい表現を心がけます。                                                                                                                                                          | <a href="https://onaoshicom.jp/">https://onaoshicom.jp/</a>                                                         |
| 16  | 株式会社オンワード樫山                       | 衣料品循環への取り組み                              | 自社の衣料品を回収し、リユース・リサイクルを通じて、衣料品循環を推進する「オンワード・グリーン・キャンペーン」。2009年にスタートし、これまでの約16年間で累計約180万名のお客さまから約934万点の衣料品を回収しました。回収した衣料品は、RPFにリサイクルし代替エネルギーとして利用するほか、リサイクル糸を作り毛布や軍手を生産。毛布は日本赤十字社の協力のもと、国内外の被災地や開発途上国への支援に活用しています。また、軍手は、災害支援、森林保全、啓蒙活動など様々な場面で配布しています。<br><br>さらに、まだ使用できる一部の衣料品は、環境コンセプトショップ「オンワード・リユースパーク」（吉祥寺/ECサイト）にてチャリティー価格で提供し、その収益をサステナブル活動に役立てています。2023年からは、『Upcycle Action（アップサイクル・アクション）』をスタートしました。ファッション企業としてのクリエイション力を生かして、不要になった衣料品から新たな価値を生み出す取り組みです。<br>2030年度に回収点数200万点を目指します。                          | <a href="https://www.onward.co.jp/green_campaign/index.html">https://www.onward.co.jp/green_campaign/index.html</a> |
| 17  | 河田フェザー株式会社                        | 羽毛の完全回復技術を有効活用した羽毛循環・リサイクル               | 羽毛は、自然の恵みによってもたらされる天産物であり、水鳥肉の副産物です。軽さやあたかさといった優れた機能を持ち、長く人々の暮らしを支えてきました。限りある天然資源である羽毛をこれから先も大切に活かしていくために、羽毛製品を全国の協力業者とともに全国1000箇所以上で回収しています。回収した羽毛は20数種類に分別、当社独自の精製加工を施し、新毛と見分けがつかないほどに回復再生され、再び価値ある羽毛や羽毛製品へ蘇らせています。これまで培ってきた技術をさらに磨き、羽毛を「使って終わり」にするのではなく、循環させながら次へつないでいきます。<br>ダウンジャケットなど衣料系の羽毛リサイクル事業では、今まで以上に拠点数、回収量を増やし続けます。<br>衣料系の羽毛製品だけではなく、羽毛ふとんといった寝具系羽毛製品の回収も引き続き注力し回収量を増やし続けます。また、羽毛ふとんのリフォームや羽毛製品の新たな提供方式もグループ全体で取り組みます。                                                                                  | <a href="https://kwd.jp/">https://kwd.jp/</a>                                                                       |
| 18  | 菅公学生服株式会社                         | プレコンシューマとポストコンシューマを組み合わせた体操服のリユース・リサイクル  | 菅公学生服株式会社は、国内の自社工場で学校制服・体操服の製造を行っています。製造時に出る裁断くずの多くは回収業者に引き取ってもらっていますが、現在自社独自で裁断くずのリサイクル・アップサイクルに取り組んでいます。<br>また着用済の学校制服・体操服に関しても協力企業を通じて回収やリユースに取組み始めていますが、まだまだ活動の目的や効果を消費者に発信しきれていない状況です。<br>本取組みは、体操服のリユース・リサイクルをもっと身近に感じていただける企画・商品を開発、自治体・学校・保護者及び生徒に協力をお願いしながら、最終的には着用できなくなった体操服を夏の制服にリサイクルし、再度地域の小中学生に着用していただく循環モデルの実践を計画しています。<br>2026年4月に計画スタート、2029年4月に共創をお願いしたい町内の小中学生に該当する体操服の着用を開始。2030年4月から順次、着用済体操服のリユース・リサイクルを目指しています。                                                                                 | ー                                                                                                                   |
| 19  | KISARAZU CONCEPT STORE（三井不動産株式会社） | 一着も無駄に                                   | 「1回も着られることなく捨てられてしまう服がない世界をつくりたい」という想いを持ち、ファッションブランドに眠るデッドストックや規格外品に光を当て、お客様へリーズナブルにお届ける活動を通じて新しいファッションのサイクルを生み出す活動をしています。<br>また、「コントリ（contributionの略）」という仕組みを作り、店舗の入場料と売上金額の一部をファッションのアップサイクルやリサイクルに取り組む企業・団体に協賛しています。<br>また、デッドストック品などをお客様へ届ける活動のみならず、少しでも服に愛着を持てるようシルクスクリーン印刷や、回収した服を使用してクッションやコースターを作るワークショップなどを実施しています。地域とのつながりも重視しており、コンセプトストアを舞台としたフィールドワークや課外授業などを木更津市の中学校向けに実施しています。<br>ただモノを売るのみではなく、コントリのパートナーなどの取組紹介を通じた情報発信基地となることを目指しています。                                                               | <a href="https://kisarazu-concept-store.com/">https://kisarazu-concept-store.com/</a>                               |

| NO. | 参加団体名                      | 事例タイトル                                 | 取組概要及び目標設定等並びに今後取組予定の事業                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 取組概要（URL）                                                                                                                                           |
|-----|----------------------------|----------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 20  | 有限会社クーヤデザイン                | 廃棄エアバッグをアップサイクルする「yoccatta TOKYO」      | 自動車部品の90%がリサイクルされている一方、繊維であるエアバッグやシートベルトはリサイクルできずに廃棄されている。<br>2015年からこの“役目を終えた”エアバッグを活用したファッションバッグ事業を展開。<br>2020年から『日本の廃材を国外に持ち出さない』目的で国内生産に切り替え、それにより輸送距離を1/4に軽減した。<br>そして過剰に作らない『適量生産』を行い、環境負荷を抑えるファッションビジネスを実践している。<br>また、立体形の回収エアバッグを平面生地に分解する手作業の工程を、知的障害者が働く“福祉工場”に委託し、障害者就業支援にも目を向けている。<br>昨年10周年を迎え、廃棄予定の安全試験用生地を蘇らせる『ComeBackMATERIAL』と、商品を購入することによって“見えない誰か”を支援する『守ってあげたい！プロジェクト』を新たに立ち上げた。<br>ファッションにおいては難しい『環境負荷の少ないビジネス』を実践し、ハンデのある人達を応援する仕組みを広げ、『自らの意識に責任を感じる人達』に向けて、楽しさと豊かさを提供していくのが目標。                                                          | <a href="https://yoccatta.tokyo">https://yoccatta.tokyo</a>                                                                                         |
| 21  | CIRCULAR CARBON 株式会社       | 衣類を炭化し、新たな資源へ循環する取組み                   | （1）取組概要<br>CIRCULAR CARBON株式会社では、不要となった天然・化学繊維類や衣類を廃棄物ではなく、サプライチェーンにおける新たな原材料と捉え、独自の炭化技術により炭化物へ再資源化しています。焼却処分と比較して約80%のCO <sub>2</sub> 排出削減を図り、GHG Scope3対応にもつなげています。衣類由来の炭化物は、土壌改良材、炭配合繊維、各種アップサイクル製品等に活用し、企業・自治体・スポーツチーム等と連携して、衣類の回収から再資源化、製品化・農業利用までを一貫して設計しています。衣類廃棄量の削減と資源循環を進め、地球環境の「保護」にとどまらず「再生」を目指します。<br>（2）周知発信計画<br>取組内容や成果、回収後の資源循環の過程を、Webサイト、SNS、イベント、連携企業・団体等を通じて発信し、生活者の理解促進と行動変容につなげます。<br>（3）提案企業概要<br>法人名：CIRCULAR CARBON株式会社<br>設立年月日：2025年4月1日<br>所在地：東京都新宿区西新宿八丁目12番1号<br>申請者氏名・連絡先：同上<br>事業内容：繊維類・衣類の炭化による再資源化及び炭化物を活用した循環型事業の企画・開発・実装。 | <a href="https://circular-carbon.jp/">https://circular-carbon.jp/</a>                                                                               |
| 22  | 株式会社サークラックス                | ブランド品等の買取・再流通による衣服の循環推進                | 【取組概要】<br>当社は「ブランドピア」や「ギャラリーレア」等を通じ、ブランド衣類等の買取および二次流通事業を展開しています。「再利用から再定義へ」を掲げ、単なるモノの売買にとどまらず、前所有者の大切な想いや衣服が持つ本質的な価値までを次の人へ繋ぐサービスを提供し、持続可能な循環の実現に取り組んでいます。<br>【目標設定】<br>利便性の向上や顧客体験の強化を通じて買取量・販売量をともに伸ばし、循環取引全体の規模を拡大します。価値ある衣服を次世代へ巡らせるビジネスを成長させ、社会全体のサステナブルな意識醸成に貢献します。<br>【今後取組予定の事業】<br>買取面では、店舗・オンライン双方で手軽かつ安心して不要な衣服を託せるようサービスを磨き上げ、回収量を最大化します。販売面では、ストーリーや魅力を丁寧に伝えることで商品の価値を「再定義」し、洗練されたリテール体験を通じて前所有者の想いを次の着手者へと届ける二次流通を強化してまいります。                                                                                                                      | <a href="https://circluxe.jp/">https://circluxe.jp/</a>                                                                                             |
| 23  | 株式会社CYKLUS                 | リペアをして愛着を持って長く使うことを軸としたサステナブルファッションの推進 | 株式会社CYKLUSは、「モノを大切に使い続けるカルチャーを育む」ことを目指し、リペアを軸としたサステナブルファッションの推進に取り組んでいます。企業やブランドと連携したリペアイベント「DO REPAIRS」を企画・運営し、修理を通じて衣類を長く使い続けることへの共感を広げてきました。また、衣類を地域で回収・修理し、次の使い手へつなぐ「Community Loops」や、福井県において繊維工場から発生する生産ロスを新たな繊維製品へ循環させる「ぐるぐるふくい」など、リペア、リユース、繊維to繊維をつなぐ取り組みを進めています。今後は、こうした取り組みを企業・自治体・地域・生活者とさらに広げるとともに、製品が長く使われ、修理・リユース等のサーキュラーサービスと継続的につながるためのデジタルプロダクトパスポート（DPP）やリペア＋サーキュラーサービスのプラットフォームの構築にも取り組みます。衣類を「捨てる」のではなく、「直す・長く使う・次へつなぐ・資源として循環させる」ことが当たり前となる社会を目指します。                                                                                       | －                                                                                                                                                   |
| 24  | THAT'S FASHION WEEKEND株式会社 | ファッション文化を通じた持続可能な未来の発信                 | THAT'S FASHION WEEKENDは、ファッションが持つ文化的価値や歴史、ものづくりの背景を次世代へ伝え、衣服を一時的な消費物ではなく、長く愛着を持って楽しむ文化を育むことを目的とした取組です。イベントでは、ファッションマーケット、チャリティフリーマーケット、ファッションショー、展示、トークセッション、表彰等を通じて、衣服の長寿命化、持続可能なものづくり、ファッションロスなどについて発信します。今後も企業、デザイナー、クリエイター、自治体、教育機関等との連携を広げ、生活者が衣服の背景や価値を知り、選び方、着方、手放し方を考える機会を継続的に創出します。                                                                                                                                                                                                                                                                    | <a href="https://thatsfashionweekend.com/">https://thatsfashionweekend.com/</a>                                                                     |
| 25  | 株式会社 サンユニフォーム              | サステナブル・ユニフォーム                          | 弊社の本業は企業制服の企画製造販売ですが、現在、愛知県が監修する「あいちサーキュラーエコノミー」の繊維プロジェクトチームに属しており、県内企業で使用済となった制服(作業服など)を回収し、リサイクルを中心に推進活動しています。回収したものは愛知県岡崎市の協力工場 で反毛リサイクルを行い、最終的には自動車内装材に再資源化しています。さらには、企業のリサイクルに取り組む価値を上げるために、回収した一部を使用し軍手やエコバッグなどのアップサイクルの推奨も行っています。リサイクルだけではなく、企業内リペアリユースというスキームを構築し、1着の制服を長寿命化させることを目的に、企業毎に中古制服在庫を弊社で預かっています。退職などで制服が不要となれば、弊社倉庫に戻してもらい、検品・リペア後、在庫とし、入社などで制服が必要となれば、弊社にある中古在庫を企業へ発送しています。尚、このスキームは各企業も状況把握しやすくするために愛知県の補助金を利用して、PCでシステム管理をしています。リサイクルについては多くの企業に浸透してきましたが、リペアリユースに関しては、推進強化が必要と考えています。                                                   | －                                                                                                                                                   |
| 26  | 株式会社三陽商会                   | 衣料回収活動と認定リユース品の販売                      | 三陽商会は、マテリアリティ「サーキュラーエコノミーへの取り組み」において、有限な資源を効率的に活用し持続可能な形で資源を循環利用する「資源循環型社会」の実現への貢献を目指しています。<br>このマテリアリティへの取り組みの一環として、当社の3R（リデュース・リユース・リサイクル）活動の総称を「SANYO RE: PROJECT(サンヨー・リ・プロジェクト)」とし、2024年3月より新たな衣料回収活動を開始しました。本活動では、回収後の衣料を再資源化する前に、さらに長く着用いただくことを目的として、可能な限り再販売をはじめとしたリユースにつなげており、2024年度・2025年度ともに、回収品のうち99%を当社と協業先でリユースしました。また、2026年には衣料回収活動に関する新たなKPIを設定、2031年度までに回収対象品の前年度生産着数に対する回収割合を10%にすることを目指しています。                                                                                                                                                 | <a href="https://www.sanyo-shokai.co.jp/sustainability/environment/collect/">https://www.sanyo-shokai.co.jp/sustainability/environment/collect/</a> |
| 27  | 合同会社C.F.S.                 | 素材から考える「長く着る」サステナブルファッション              | 合同会社C.F.S.は、欧州の高品質な天然素材を活用したオーダースーツ・衣料品の企画販売を通じ、「価値ある一着を選び、長く大切に着る」文化の普及に取り組んでいます。<br>また、自社で運営する「神田岩本町百貨店」では、ウールをはじめとする天然繊維を中心に、素材・機能性・生産背景にこだわったサステナブルなアパレルをラインアップしています。<br>さらに、「生地を捨てない」をコンセプトとした欧州アーカイブ素材ReLiveTex®の普及、次世代クリエイターへの素材提供、メリノウール衣料を災害時にも活用する「WOOL FOR ONE」や被災地への衣料支援にも取り組んでいます。<br><br>今後も企業・自治体・教育機関と連携し、天然素材の価値、衣服の長寿命化、素材循環を生活者へ広げてまいります。                                                                                                                                                                                                    | －                                                                                                                                                   |
| 28  | 株式会社ジールシー                  | Sharing Cloudによる衣料循環プラットフォームの構築支援      | 株式会社ジールシーは、シェアリングエコノミーサービス構築基盤「Sharing Cloud」を通じ、衣料品のリユース・リメイク・リペア等を促進するデジタルプラットフォームの構築支援に取り組んでいます。「Sharing Cloud」は、商品・スキルの出品、個別依頼、マッチング、受発注、決済・売上管理等を備え、リメイク作品と縫製スキルを売買するサービスの基盤として活用された実績があります。今後は、アパレル企業、百貨店、自治体、教育機関等と連携し、余剰在庫、回収衣料、残反、制服等をリユース・リメイク・アップサイクルにつなぐサービスの立上げを支援します。また、「Sharing Cloud」のWebサイト、事例紹介、プレスリリース等を通じて取組を発信し、衣料品を捨てる以外の選択肢と循環型ファッションの普及に貢献します。                                                                                                                                                                                          | <a href="https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000074.000030247.html">https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000074.000030247.html</a>                 |

| NO. | 参加団体名             | 事例タイトル                                                          | 取組概要及び目標設定等並びに今後取組予定の事業                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 取組概要（URL）                                                                                                                                                                                                                 |
|-----|-------------------|-----------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 29  | 株式会社siimee        | 「人」と「地球にやさしい」愛着から生まれる循環を目指す                                     | 弊社はラオスの手紡ぎ・手織り・自然染色による布を活用したアパレルブランド「siimee」を展開し、「愛着から生まれる循環」の価値を訴求するものづくりを実践している。<br>当ブランドの特筆すべき独自性は、アパレル業界における均質化された大量生産の対極にある「規格化されない個性」を愛する消費価値の提案である。非電動の機織りやその時々によって異なる自然染色は、手作業ゆえに生じる布の表情の違いは、完全な一点ものの魅力となる。<br>さらに「誰が布を織り、誰が縫製したか」という事実に残らず、職人の性格や現地の暮らしぶりを私たちが何度も通い交流していることで、極めて解像度の高い生産ストーリーを顧客へ伝達している。<br>環境負荷を抑えた自然素材を用いるだけでなく、作り手の物語を共有し、一着の衣服への「深い愛着」を育むことが、服を長く着続けるという本質的なサステナビリティに直結する。<br>愛着を持って当ブランドを好きになってもらうことが、結果的に生産地の「人」にも「地球環境」にも優しい循環を生み出す。今後は全国でのPOPUP出展等を通じてこの価値を発信し、サステナブルファッションの認知向上に貢献していく。 | <a href="https://note.com/siimee">https://note.com/siimee</a>                                                                                                                                                             |
| 30  | JGC Digital株式会社   | IoT機能を搭載した無人衣類回収サービス「するーぶ」の事業推進                                 | JGC Digital株式会社は、日揮ホールディングス株式会社の子会社としてITサービスの企画・開発・運用を手がけるとともに、衣類の資源回収サービス「するーぶ」を展開しています。<br>「するーぶ」は、IoT対応の無人回収ボックスと専用アプリを組み合わせ、家庭で不要となった衣類をスムーズに回収・再資源化するサービスです。回収した衣類の約 8 1 %は古着としてリユースされ、残りも繊維リサイクルやアップサイクルに活用されています。<br>当社は東京大学等の監修のもと、回収衣類の再資源化による環境価値を定量化し、CO2削減量をレポートとして可視化できる仕組みを構築しています。<br>2025年度の実績では衣類回収量約47.1トンとなりました。<br>2026年度は自治体や商業施設等への設置拡大を進め、衣類回収量の増加と資源循環の促進を図るとともに、「服を捨てない」行動を社会に定着させ、循環型社会の実現に貢献してまいります。                                                                                           | <a href="https://sales.suloop.biz/">https://sales.suloop.biz/</a>                                                                                                                                                         |
| 31  | 株式会社JEPLAN        | フクーポンキャンペーン                                                     | B R I N G の「フクーポンキャンペーン」は、不要になった服などの繊維製品を店舗やオンラインで回収してもらい、その引き換えにお得なクーポンやポイントがもらえる資源循環プロジェクトです。毎年 1 0 月の「 3 R推進月間」などに合わせて、パートナー企業と連携して実施しています。キャンペーンの概要内容：着なくなった衣類を回収店舗や指定の方法で持ち込むと、参加ブランド・企業で使える割引クーポンやポイントと交換できます。目的：服の廃棄を減らし、リユース・リサイクルをみんなで進めることを目指しています。参加方法：対象となるパートナー企業の店舗へ不要な服を持ち込むか、各社の案内を確認して利用します。                                                                                                                                                                                                             | <a href="https://bring.org/pages/fucoupon-2025?srsltid=AfmBOop61LKwFxAQtQQtSQ4zJmB4rTvYf7EwYlpl7uBipJjwCC0c0vg">https://bring.org/pages/fucoupon-2025?srsltid=AfmBOop61LKwFxAQtQQtSQ4zJmB4rTvYf7EwYlpl7uBipJjwCC0c0vg</a> |
| 32  | シキボウ株式会社/新内外綿株式会社 | 反毛による繊維to繊維のアップサイクル技術「彩生」                                       | 「彩生」は回収された廃棄衣料や生産工程の端材などの繊維資源を、反毛によって再び紡績糸に戻す「繊維 t o 繊維」のアップサイクル技術です。出来上がった紡績糸は、生地・製品等にして、回収主体元に資源循環して利用いただきます。目標は、紡績糸換算で月産 1 0 トンです。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | <a href="https://www.shikibo.co.jp/saisei/">https://www.shikibo.co.jp/saisei/</a>                                                                                                                                         |
| 33  | 株式会社ships         | 「SHIPS CYCLE MARKETおよびSHIPS RECYCLE ACTION」衣類のリユース・回収による資源循環の推進 | SHIPSでは、衣類を「つくる・売る」で終わらせるのではなく、「長く着る・次につなぐ・資源として循環させる」ことを目指し、リユースサービス「SHIPS CYCLE MARKET」と衣料品回収活動「SHIPS RECYCLE ACTION」を展開しています。お客様やスタッフが大切に着用した衣類をリユースにつなぐことで、衣類のライフサイクルを延ばし、廃棄物の削減と資源の有効活用を推進しています。また、不要になった衣類は店舗で回収し、リユース・リサイクルなど適切な方法で循環させることで、「捨てる」から「次につなぐ」への行動変容を促しています。これらの取り組みを通じて、お客様が日常の買い物の中で気軽に循環型ファッションへ参加できる機会を提供するとともに、衣類の循環利用を促進し、持続可能なファッションと循環型社会の実現に貢献しています。                                                                                                                                          | <a href="https://www.shipsltd.co.jp/news/detail.aspx?news=csr251201">https://www.shipsltd.co.jp/news/detail.aspx?news=csr251201</a>                                                                                       |
| 34  | 株式会社情報の森          | 居場所としてのファッションの研究とワークショップの実施                                     | 衣服・ファッションの機能を「居服」という概念で捉える。居服とは、自分にとって特別な衣服やスタイリングを通じて、自分でいてよいと感じること、他者とのつながりを感じること、自分の選択やこだわりを言葉にすること、安心感や本来感を想起すること、社会の中での役割やあり方を確認することである。既存の居服ワークショップでは、居場所の定義をファッションに接続し、被受容感、他者との関係性、思考・内容、安心感、役割感、本来感の6項目に整理している。この6項目は、衣服が単に身体を覆うものとしてではなく、自己と他者をつなぐ心理的・社会的な媒体として働く可能性を示している。心理学、社会学的な知見や、英国でのboundary教育を協力者と共に実践形式にして行う。今後、ワークショップ内においてミシンワークや刺子などの手作業を通じて一着の居服に対しての愛着による結びつきをより強くさせるものである。研究について福島医療大学 青木 俊太郎氏と共に推進し、実践について青山学院大学や栃木県内の一般社団法人ひるねが主催するユースセンター事業内などにおいて、中高生を対象に実践している。                            | <a href="https://jouhounomori.jp/archives/news/fashion_seminar_report">https://jouhounomori.jp/archives/news/fashion_seminar_report</a>                                                                                   |
| 35  | Synflux株式会社       | 廃棄ゼロの服作りのための次世代ファッションデザインソフトウェア                                 | <取組概要><br>当社は、ファッション産業における資源循環と環境負荷低減を目指し、製品設計段階からサステナブルな取組を推進している。従来の衣服製造では裁断時に約15～30%のテキスタイルが端材として廃棄されていたが、当社のコア技術Algorithmic Coutureは3D技術と機械学習アルゴリズムにより、シルエットを保ったまま型紙を最適化し、テキスタイルロスによる環境負荷と材料コストを低減している。また、欧州の設計関連環境政策をイノベーションの機会と捉え、マルチステークホルダー対話を前提としたサーキュラーデザイン戦略ツールキットを活用し、新製品開発や循環配慮型設計を支援している。<br><目標設定><br>Algorithmic CoutureのSaaS展開により、国内外のサプライチェーンを一気通貫した廃棄物削減および環境フットプリント削減に貢献する。サーキュラーデザイン戦略ワークショップの支援を通じて国内の循環配慮設計を促進し、循環型の産業形成に貢献する。<br><今後取組予定の事業><br>サプライチェーンを一気通貫した廃棄物削減を目指し、製造工程に介入するためのソフトウェアを開発する。 | <a href="https://prtimes.jp/main/html/searchrlp/company_id/80230">https://prtimes.jp/main/html/searchrlp/company_id/80230</a>                                                                                             |
| 36  | 株式会社スマイルズ         | PASS THE BATON                                                  | PASS THE BATONは、2009年にセレクトリサイクルショップとして誕生しました。モノの背景やストーリーを添えて、共感を通じて次の担い手へつなぐ文化を育んできました。現在は「NEW CYCLE COMMONS」をコンセプトに、ファッションをはじめとするものづくり企業と連携し、規格外品やデッドストック、未活用資源などに光を当て直すことで、従来にはない商流とモノの流れを創出しています。オンラインショップでは、ブランドの倉庫に眠るデッドストックをストーリーとともに発信・販売するほか、企業の端材をアップサイクルした商品開発も展開。さらに、年3回開催する「PASS THE BATON MARKET」では作り手と生活者をつなぎ、楽しみながら無理なく資源循環することへの理解と実践を促進しています。現在、ものづくり企業のサステナビリティの取り組みを調査・分析・考察した「PASS THE BATON HAND BOOK for Sustainable Action」を制作中。企業活動から見えてくる課題や施策、その成果を共有し、持続可能なファッションと社会の実現に向けた行動変容を後押ししています。      | <a href="https://www.pass-the-baton.com/">https://www.pass-the-baton.com/</a>                                                                                                                                             |
| 37  | ゼンドラ株式会社          | 地域循環と経済価値を生む「こども服の譲渡会」                                          | 当社は、サイズアウトして着れなくなったこども服を回収し、必要とする家庭へ無償で譲渡する「こども服の譲渡会」を継続的に実施しています。衣類の再利用を通じて廃棄量を削減しながら資源を循環させることで環境負荷の低減を図るとともに、子育て家庭の衣類購入負担を軽減し、福祉的な経済価値の創出にも寄与しています。また、回収・選別・会場運営の一部を福祉施設と連携して行うことで、地域の就労機会の拡大と社会参加の促進にもつなげています。今後は回収拠点の拡大や、クリーニング店・商業施設・物流事業者との協働による効率的な循環体制の構築を進め、衣類資源が循環する仕組みを強化します。さらに、自治体・教育機関・福祉施設・金融機関との連携を深め、環境保全・子育て支援・福祉的雇用促進を一体的に推進し、持続可能な地域モデルとして発展させていくことを目指します。加えて、各地で同様の活動を行う団体への運営支援や協賛企業との連携調整、回収体制の標準化などを行う中間支援団体としての役割を確立し、地域循環型リユースの普及拡大に取り組んでいく予定です。                                               | <a href="https://www.zendora.co.jp/transferevent/">https://www.zendora.co.jp/transferevent/</a>                                                                                                                           |
| 38  | ターンオーバー株式会社       | 古着 ニコニコマーケット                                                    | 1点880円、2点550円と二個買うとお得な古着屋です。“たくさんのお洋服の中から選んでいく”お買い物の楽しさをリーズナブルな古着でお客様へ提供しています。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | —                                                                                                                                                                                                                         |
| 39  | 株式会社大丸松坂屋百貨店      | 循環型のファッションサブスクリプションサービス「アナザーアドレス」                               | AnotherADdress（アナザーアドレス）は、「所有する」から「必要な期間だけシェアする」へとファッションの楽しみ方を変える、大丸松坂屋百貨店の月額制ファッションレンタルサービスです。購入後に着用機会を失ったり、流行の変化によって廃棄されたりする衣料品を減らし、1着の服を多くの人が長く楽しむことで、衣料品のライフサイクル延長と廃棄削減を目指しています。服のシェアに加え、修繕・リメイクによるアップサイクル、再資源化、環境に配慮したクリーニングや梱包・物流など、サービス全体で循環型の仕組みを構築している点が特徴です。2026年には、2月にコレド日本橋で初のリアル店舗「AnotherADdress TOKYO」を開設し、予約不要の試着やスタイリスト相談、その場でのレンタルを実現。6月24日からは虎ノ門ヒルズのGlass Rock Galleryへ展開し、シーン別の売り場やreADdressの展示、予約制パーソナルスタイリングを通じて、環境配慮と利便性を両立した“持たないファッション”を提案しています。                                                 | <a href="https://www.anotheraddress.jp/sustainability">https://www.anotheraddress.jp/sustainability</a>                                                                                                                   |

| NO. | 参加団体名           | 事例タイトル                                    | 取組概要及び目標設定等並びに今後取組予定の事業                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 取組概要（URL）                                                                                                                             |
|-----|-----------------|-------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 40  | 株式会社 高島屋        | Depart de Loop（デパート デループ）                 | 高島屋グループが2021年に開始した循環型プロジェクト。高島屋各店を拠点に、お客様からご不要となった衣料品やデニム、カシミアなどを回収し、リサイクル事業者や取引先と連携して再生素材や新たな製品へと活用することで、資源循環の推進と廃棄物削減に取り組んでいます。回収から再資源化、商品化までをつなぐ循環の仕組みを構築するとともに、お客様が身近に資源循環へ参加できる機会を提供し、サステナブルな消費行動の促進にも貢献しています。2021年の開始以来、累計約260件の商品・企画を展開しており、循環型ファッションの取組を継続的に拡大しています。また、2026年度上期の回収キャンペーンでは回収量約55tを達成し、前年同期比450%増となるなど、お客様参加型の資源循環の輪が着実に広がっています。今後も高島屋グループは、多様なステークホルダーとの共創を通じて循環型ファッションの普及と資源循環型社会の実現のため、お客様が身近に資源循環へ参加できる機会を広げるとともに、回収・再資源化・商品化の循環モデルを強化し、サステナブルな消費行動の定着を目指してまいります。   | <a href="https://www.takashimaya.co.jp/store/special/depart_de_loop/">https://www.takashimaya.co.jp/store/special/depart_de_loop/</a> |
| 41  | タキヒヨー株式会社       | サステナブルソリューションカンパニーとして、ものづくりで課題解決を目指す      | 当社は、サステナブル素材による服地・アパレル・雑貨等の企画開発を推進しています。<br>アパレル生産時に発生する裁断くずや古着を回収・粉砕し、再び糸や生地へと生まれ変わらせる「全て無駄にしない」循環型スキーム「NO WASTE PROJECT（ノーウェイストプロジェクト）」、海洋に廃棄されたペットボトルをアップサイクルした再生素材などからなる海の豊かさを守る「AQUAROBIE（アクアローブ）」などを展開し、さらには国際認証に裏付けられたサプライチェーンの構築を進めるなど、サステナブルソリューションカンパニーとして社会課題の解決とビジネスの両立を目指しています。<br>さらにはサステナブルなファッションのこれからを考えるオウンドメディア「_ for good(ブランクフォーグッド)」を運営し次代を担うZ世代や異業種など、異なる立場や視点を持つ人々が交わる「共創の場づくり」を推進。業界の垣根を越えた多角的なアプローチで、新しいサステナブルファッションの未来をステークホルダーと一緒に考えています。                          | <a href="https://takihyo.jp/">https://takihyo.jp/</a>                                                                                 |
| 42  | 瀧定株式会社          | サステナブルマテリアルの運用                            | 瀧定株式会社は、「LIFE with EARTH 100年後も笑顔で」をコーポレートブランドに掲げ、地球環境と人々の豊かな暮らしの両立を目指した事業活動を推進しています。衣料品の原料となる天然資源や化学原料を活用する企業として、持続可能な原料調達を重要課題と位置付け、環境負荷低減や資源循環に配慮した素材開発・提案に取り組んでいます。<br>当社では独自のサステナブル素材基準を策定し、「Recycle」「Care for planet」「Care for animal」の3つのカテゴリーに基準を設けております。各素材のトレーサビリティ等のエビデンス確認を行い、現在、約700点のサステナブル商品を運用し、営業活動や顧客提案において積極的に展開しています。<br><br>またリサイクルウールやリサイクルナイロン、オーガニックコットンだけでなく新素材のポリ乳酸PLAXなどの開発も推進しています。今後もサステナブルな商材とサービスの提供を通じて、循環型社会の実現と、100年先も人々がファッションを楽しめる未来づくりに貢献してまいります。         | <a href="https://lifewithearth.com/#products">https://lifewithearth.com/#products</a>                                                 |
| 43  | WWDJAPAN        | 伝える、学ぶ、つなぐメディアWWDJAPANが取り組むサステナビリティ       | 「WWDJAPAN」は、ファッション＆ビューティ業界の専門メディアとして、サステナビリティを重要な編集テーマに位置付け、国内外の先進事例や課題、政策、テクノロジー、資源循環などを継続的に取材・発信しています。同時に、情報発信にとどまらず、「学ぶ」「つながる」「体験する」機会をつくることで、産業の変革を後押ししています。業界の経営者や実務担当者、専門家らが垣根を越えて議論する「WWDJAPAN サステナビリティ・サミット」を開催するほか、連続講座「サステナビリティ・コネクト」では、第一線の実践者による講義やワークショップを通じて、知識を実務へとつなげる人材育成と企業横断のネットワーク形成を推進。さらに生活者に向けては「WWDJAPAN REUSE MARKET」を企画・運営し、リユースやリメイク、リペア、アップサイクルなどを身近に体験できる場を提供しています。メディアとして「伝える」ことを起点に、「学ぶ」「つなぐ」「体験する」までを一体化し、企業と生活者双方の意識・行動変容を促すことで、ファッション産業のサステナビリティシフトに貢献しています。 | －                                                                                                                                     |
| 44  | 蝶理株式会社          | 繊維to繊維の循環事業「B-LOOP」                       | B-LOOPは、廃棄される繊維を回収・循環させ、サーキュラーエコノミーを実現するスキームです。<br>繊維製品の製造工程で発生した廃棄繊維使用済衣料を、パートナー企業と連携して回収・再生し、新しい価値を持たせます。<br>当社の強みであるポリエステル繊維の事業領域でのグローバルサプライチェーンネットワークを活かし、パートナー企業と連携し、日本・海外での繊維to繊維 再生事業を行っています。ポリエステル素材をリサイクル技術によりポリエステル糸に再生することで、石油資源の使用量削減を実現します。糸への再生が難しい素材は、反毛後に自動車の吸音材や水害防止用の河川敷マットなどへ再利用し、資源を無駄にせず有効活用することで、焼却処分される繊維の量を減らします。                                                                                                                                                      | <a href="https://www.chorimoda.com/bloop">https://www.chorimoda.com/bloop</a>                                                         |
| 45  | 株式会社艶金          | －                                         | 当社はファッション向け衣料の染色加工事業を軸に、持続可能なものづくりを推進しています。工場のエネルギーを木材チップ(建築廃材)を活用したバイオマスボイラーへ転換したほか、環境配慮型の省エネ染色機を導入するなど、脱炭素化を推進。生地1メートル生産あたりのCO2排出量を一般的な染工場と比較して、83%削減することを実現しています。<br>また、食品や植物の残さを有効活用した自社独自の染色技術「のこり染」により、多様な企業との共創プロジェクトを多数創出してまいりました。<br>今後はさらなる循環型社会の実現を目指し、自社工場内への堆肥場の設置を予定しています。農園でのコットン生産から、製品化、そして役目を終えた衣類を土に還して再び農作物を育てるまでの包括的な「サーキュラーエコノミー（循環型ものづくり）」の確立を目指し、持続可能な繊維産業を牽引してまいります。                                                                                                  | －                                                                                                                                     |
| 46  | TAフロンティア株式会社    | 衣料品の資源循環を実現する取組                           | ポリエステルのケミカルリサイクル技術開発に加え、繊維メーカー中心に資源循環のための技術開発を実施するコンソーシアムCFT2を設立し、使用済みの衣料品の回収から繊維to繊維リサイクルを実現を目指す。併せて使用済み衣料品の回収や繊維to繊維リサイクル品の消費者への啓発活動も実施している。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | －                                                                                                                                     |
| 47  | 株式会社ディーブサンクス    | 「ふくとく。」学生アパレルロスを目指す服も徳も巡るプラットフォーム         | 「ふくとく。」とは、服が福となり、お得や得意が世の中を良くする徳へと変わる仕組みです。事業名の最後につけた「。」には、価値が巡り続ける循環の意味を含めています。【回収→創造→還元→貢献】という一連の流れを一つの仕組みとして実装、学生の生活応援と衣料品の廃棄抑制を実現すると同時に、「誰かのために」という行動を促進します。仕組みの中核は「ふくとくマーケット」。新品廃棄の恐れがあるブランドの余剰在庫を生活応援価格で大学内で大学生に販売します。大学内というクローズ空間で販売するためブランド棄損が起きにくい仕組みです。売上の一部を寄付に回すことで、学生の皆様に他の社会課題への関心も促しています。また開催時は古着回収ボックス「ふくとくボックス。」を設置。服飾系の学生にアップサイクルを依頼したり、リユースできるものは地域活性化のための寄付に活用しています。現在 4 大学で実施実績がございます。その内 1 つの大学では経営学部で授業として学生とともに取り組んでいます。                                               | <a href="https://note.com/fukutoku_journal/n/ncdc401bcbcb49">https://note.com/fukutoku_journal/n/ncdc401bcbcb49</a>                   |
| 48  | 株式会社TSIホールディングス | 原材料調達から再資源化までのサステナブルサーキュラーシステム            | 原材料の環境負荷の算出や認証素材の使用を推進し、そのうえで、衣料回収、リセールを推進しています。<br>低環境負荷素材の使用率を2030年までに全商品のうち 2 0 %を目指す目標を掲げ、推進しています。今後も科学的根拠に基づいた素材の切り替えを推進してまいります                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | <a href="https://sustainability.tsi-holdings.com/">https://sustainability.tsi-holdings.com/</a>                                       |
| 49  | 株式会社テラーバンク      | 洋服の廃棄を減らし、企業のLTVを伸ばすリノベーション型サーキュラーファッション  | 当社は2019年、繊維産業の構造的な縮小という課題に向き合うベンチャー企業として岐阜でスタートし、今年で7期目を迎えました。「お直し」を単なる補修ではなく、洋服に新しい価値を吹き込む「リノベーション」として捉え直し、サイズ調整やクリーニング、補修、保管、配送をワンストップで承るアフターケアサービスをB to B事業として展開し、循環型のファッションを推進しています。<br>新たな取り組みとして、①中古アパレルを再流通させる「CPO（Certified Pre-Owned Apparel）」認定中古服事業の開発、②アパレル製品のお困りごとを解決する「BPO（Business Process Outsourcing）」型サービスの顧客獲得、③企業ユニフォームのお直し・リメイクを承る「RMO（Re Make Outsourcing）」受託モデルの拡大に取り組んでいます。すでに大手アパレル企業や学生服メーカーとの提携を進め、リセールの取り組みをスタートしているほか、お直し職人の技術継承にも力を注いでいます。                       | －                                                                                                                                     |
| 50  | 豊島株式会社          | 日本国内で発生する廃棄衣類等を資源として再循環させるプロジェクト WAMEGURI | <取組概要><br>「WAMEGURI」は、2022年1月に立ち上がった、日本国内で発生する廃棄衣類等を資源として再循環させるプロジェクトです。店頭で回収した衣料品、廃棄になってしまうB品在庫、リニューアル前の旧型ユニフォームなどを回収し、ご要望に応じた適切な形で再製品化させて、再び世の中に巡らせます。<br><目標設定><br>あらゆる繊維製品を回収し、工場での選別・再資源化を経て、再び製品として循環していくことを目指しています。<br><今後の取組予定><br>回収した衣類を原料とした再資源化の出口の種類を今後より広げ、多くの選択肢から選べるようにします。出口の選択肢を広げることで、これまで以上のにより多くの方と回収から再製品化までの取組の環を広げてまいります。                                                                                                                                              | －                                                                                                                                     |

| NO. | 参加団体名                | 事例タイトル                                  | 取組概要及び目標設定等並びに今後取組予定の事業                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 取組概要（URL）                                                                                                                             |
|-----|----------------------|-----------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 51  | 株式会社ナイガイ             | 靴下業界初のGHG算定基準の策定と残糸で作るアップサイクルの取組み。      | 当社は靴下メーカーとして、業界に先駆けGHG排出量の情報開示に取り組んでいます。また、2018年から蓄積してきた足の計測データベースを活用し、生活者の足の健康や快適な着用体験に資する製品設計・研究を進めています。さらに、靴下製造時に発生する残糸を活用したアップサイクル商品の開発にも取り組んでいます。障がいのある方々による手織り生地を使用して製作し、地域イベントや直営店で販売するとともに、売上の一部を福祉事業所へ寄付しています。今後は、これらの取組をサステナブルファッション・パートナー制度を通じて他社・団体と共有し、業界横断的な連携のもとで、より実効性のある環境配慮設計や情報開示の高度化を目指します。                                                                                                                                                                                                             | <a href="https://www.naigai.co.jp/contents/hp0161/index10140000.html">https://www.naigai.co.jp/contents/hp0161/index10140000.html</a> |
| 52  | ナガセクムテックス株式会社        | ラバーライクレジン加工による衣服寿命倍増とアパレル廃棄削減を推進する循環型事業 | 【取組概要】<br>独自の保護被膜技術「ラバーライクレジン（RLR）」を洗濯工程に組み込み、衣服の寿命を延長するソリューションを提供します。極低濃度での加工により水質環境への影響を極小化しつつ、摩耗や毛玉を防止して衣服の資産価値を長期維持します。<br>【目標設定】<br>ファッションレンタルやホテルリネン業界を初期ターゲットとし、衣服の「大量廃棄・大量補充」構造からの脱却を目指します。寿命倍増によるアパレル廃棄ロスの半減をKPIに掲げ、顧客企業の財務的メリットと環境負荷低減を同時に実現する持続可能なモデルを確立します。<br>【今後取組予定の事業】<br>単なる液剤販売ではなく、衣服の資産価値を守る「アセットライセンス（衣服保全サービス）」として展開します。クリーニング等の洗濯現場と連携して最適な加工プロセスを構築し、安定して高品質な保全加工を提供します。将来的には一般アパレル市場へも本技術を横展開し、ファッション産業全体のサーキュラーエコノミー実現に貢献します。                                                                     | －                                                                                                                                     |
| 53  | ナカノ株式会社              | 衣類の回収・選別からリユース・リサイクルまでの資源循環             | ナカノ株式会社は1934年の創業以来、古着・古布を回収・選別し、再使用可能な衣類は国内外でリユースするとともに、再使用が難しい衣類はウエス、反毛、再生糸、軍手、フェルト等へのマテリアルリサイクルに取り組んでいます。近年は、回収衣類を原料とした繊維to繊維や、古着由来フェルトを活用した圧縮ボード「TEXLAM®」など、新たな循環用途の開発も推進しています。また、自治体・企業等と連携した衣類回収・選別にも取り組み、回収した衣類を可能な限り廃棄せず、状態や素材に応じて最適なリユース・リサイクル先へつなぐことで、繊維資源の循環と廃棄物削減を目指します。今後も回収ネットワークの拡大、繊維to繊維を含む再資源化技術・用途の開拓、自治体・アパレル企業等との連携を進め、衣類の循環利用をさらに拡大していきます。                                                                                                                                                             | <a href="http://www.nakano-inter.co.jp/">http://www.nakano-inter.co.jp/</a>                                                           |
| 54  | ニット青木株式会社            | ニットのお修理                                 | 私たち、ニット青木は2026年で創業37年を迎えます。ニットのお直し“業界ナンバーワン”を目指し、職人技術を最高峰まで高め、安定あるサービスを提供し続けることが今も昔も変わらず私たちのすべきことだと思っております。そしてこの巧みな技術をより多くの人に知ってもらい、日本が誇る「もの作りに対する情熱」「お修理の技術力の高さ」を世界に発信するため、アジア圏でお直しのビジネス展開することもまた重要な使命だと考えております。今後も品質管理のさらなる強化、ネットから安全で快適にお取引できる環境を多角的に構築していく事など、みなさまからの期待にお応えべく改善と努力を続けて参ります。                                                                                                                                                                                                                             | <a href="https://knit-aoki.com/">https://knit-aoki.com/</a>                                                                           |
| 55  | 日本毛織株式会社             | 衣料品回収・循環プロジェクト「WAONAS」                  | 取組概要<br>「WAONAS」（ワオナス）は回収したウール混の衣料品を原料の状態まで戻し、再び糸から服へと蘇らせる環境に配慮した日本初の取り組みです。これまでの回収した衣料品を自動車用内装素材などにリサイクルする取り組みを発展させた「服から服へ」と再生させる新しいプロジェクトです。服へと再生できない部分は自動車内装材等にリサイクルし、繊維部分の廃棄はゼロを目指します。「WAONAS」には次の3つの想いが込められています。<br>和：人々が協力し、持続可能な社会を実現する。<br>輪：回収循環・生産供給のためのパートナーシップを構築する。<br>環：廃棄衣料を減らす活動を通して地球環境保全に貢献する。<br>目標設定<br>2030年度までに循環型制服10万着の販売を目指します。<br>今後取組予定の事業<br>バイオものづくり革命推進事業に採択された「繊維to繊維の資源循環構築の実現に向けた研究開発・実証」において、ニッケは再資源化率を現行の約10%から40%まで引き上げる研究開発を推進します。                                                     | <a href="https://www.nikke.co.jp/business/Lines_1/waonas/index.html">https://www.nikke.co.jp/business/Lines_1/waonas/index.html</a>   |
| 56  | nook株式会社             | ブランド品でない服にも、次の買い手をつくる                   | nook株式会社は、著名ブランドや高い再販価格を持つ服だけでなく、生活者が不要になったノーブランド・低単価の服にも、次の買い手であるコンシューマーという行き場をつくることを中核価値としています。従来、こうした衣服は一点ごとの採寸・査定・出品コストに対して販売単価が低く、再販の受け皿に乗りにくい課題がありました。リユース事業者向け「Fukudasu」で採寸・査定・商品情報作成・出品・在庫管理をAI支援し、商品化コストを下げます。生活者向け「nook」では、ブランド名ではなく画像やスタイルから好みに合う一点ものを発見できる体験を提供し、「中古だから」ではなく「欲しい服だから選ぶ」消費を広げます。環境省調査では、衣類のライフサイクルCO2排出量の94.6%が原材料調達から輸送までの上流段階で生じ、1着の生産で25.5kgのCO2が排出されると推計されています。廃棄削減だけでなく、新品購入の一部を二次流通へ代替し、新品生産需要そのものを抑えます。今後1年間は、商品化・販売点数、販売率、販売日数、新品購入の代替意向を継続計測し、環境省キャンペーンと連動して発信します。                      | <a href="https://corp.nooknook.jp/">https://corp.nooknook.jp/</a>                                                                     |
| 57  | 野村貿易株式会社             | 循環型繊維製品の普及                              | 当社は総合商社ではありながら、ベトナムに自社運営の縫製工場を持ち、約30年アパレル事業に携わっております。取扱いアイテムは作業着や企業ユニフォーム、ドレスシャツ、白衣、サービス、学校制服等、多岐に渡ります。自社工場を武器に立案、企画、製造、販売、一気通貫を強みしております。そしてこれらの強みを持続可能な事業にする為にもモノづくりを知る当社だからこそトレーサビリティが確立出来る立場と考え、廃棄される繊維製品を対象に回収、資源循環や脱炭素に向け取り組みを開始します。当社がプラットフォームになり、作って売るという動脈ビジネスと外注リソースを活用した静脈ビジネスのハブ機能になる未来を作りたいと考えています。                                                                                                                                                                                                             | －                                                                                                                                     |
| 58  | 株式会社 BIOTECHWORKS-H2 | リサイクル困難な衣類を分別せずエネルギーに変える、繊維循環の確立を目指す    | 【取組概要】リサイクル困難な衣類を含む混合廃棄物を、分別せずエネルギーに変える。最終的にはリユースや繊維リサイクルが出来ない衣類の最終受け皿を担う。<br>【目標設定】行き場のない衣類の100%資源化。残渣を出さず、埋立や単純焼却に依存しない繊維循環を完成させる。<br>【今後取組予定の事業】アパレル企業・自治体と連携した回収衣類のエネルギー化事業と、CO2削減効果の見える化を国内外で展開する。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | －                                                                                                                                     |
| 59  | 株式会社バウンスバック          | 被災地から竹の町へ～放置竹林の整備から出た廃材を活用した竹デニムの開発～    | 「地域の課題を、社会に選ばれる価値へ変える」をMissionに、地域の未活用資源を、顧客価値と事業性を備えた持続可能な事業へ転換することを目指しています。<br>地元である岡山県倉敷市の、真備町の竹を最初の事業化モデルと位置づけ、竹デニム・竹和紙糸・竹パウダーを軸に、繊維・食・新素材の3領域で商品・用途開発と事業化に取り組んでいます。特に繊維領域では、竹を原料とする糸やデニムを、衣料品や業務用製品等へ展開しています。また、素材開発のみではなく、継続的に利用される事業の構築を進めています。<br>2027年3月までに竹関連3プロダクト合計500万円の売上と、各プロダクトを使用した商品の販売確定を目標としています。<br>将来は、竹で確立した事業化モデルを他地域・他資源へ展開し、未活用の地域資源が持続可能な産業として循環する社会の実現と、全国の地域活性化への貢献を目指します。                                                                                                                     | －                                                                                                                                     |
| 60  | 株式会社 博報堂 Gravity     | DO REPAIRS「愛着を着る」：27ブランドが参画する循環型リペア体験設計 | 【取組概要】<br>サステナビリティ推進においてコミュニケーションは、周知に留まらず生活者の行動変容を生み出す不可欠な要素です。私たちは「正しさ」や「啓発」に留めず、取り組みに感性や物語を結びつけ、生活者が日常の暮らしの中で主体的に参加したくなる構造へと昇華させるコミュニケーション開発を行っています。<br>株式会社CYKLUSを中心に、27ブランド・団体が参画する「DO REPAIRS」では、衣服の手入れを「愛着を着る」という概念へ翻訳。持ち歩くこと自体が周囲との会話を生む廃棄予定繊維（C反）を活用した「愛着MAP」の制作や、同素材の駅ポスターを事後回収・脱色再利用するスキーム等、媒体・体験の双方で循環を生み出し、周囲を巻き込む『動くメディア』として機能する構造を実装しました。<br>【目標設定・今後の取組】<br>どれだけ優れた取り組みも、生活者に届き、共感されなければ行動変容や社会の変化には繋がりません。生活者が日常の延長で自然に巻き込まれ、価値観が更新される体験構造をつくることが役割です。今後も事業者やブランドの挑戦に実態と確かな変化を生み出し、持続可能な選択肢を社会に定着させてまいります。 | <a href="https://h-gravity.co.jp/work/2213/">https://h-gravity.co.jp/work/2213/</a>                                                   |

| NO. | 参加団体名                 | 事例タイトル                                  | 取組概要及び目標設定等並びに今後取組予定の事業                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 取組概要（URL）                                                                                                                                                                           |
|-----|-----------------------|-----------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 61  | バリエンスジャパン株式会社         | プレオウンド（サステナブル）ファッションを通じたALLUの循環型社会促進施策  | ALLUは、バッグ、時計、ジュエリー、アパレル等のプレオウンドのラグジュアリー製品の販売を主軸に、買取サービスも展開し、不要になったものを次の利用者へつなぐリユースサービスを提供しています。また、リユースによる温室効果ガス排出量や水使用量の削減への貢献を、削減貢献量の算定手法により定量的に把握し、「Resale Impact」として全店舗の商品タグやオンラインストアの商品詳細ページに表示し、一人ひとりの選択がもたらす環境価値を可視化しています。さらに、ジェーン・パーキン氏が使用した「オリジナル・パーキン」や、マルジェラ氏が所有していた「Graffiti Tabi」など、背景にストーリーを持つ品を展示し、モノを長く大切に使う意識の醸成にも取り組んでいます。リユースをより身近な選択肢として定着させ、モノを廃棄せず次の人へつなぐ価値観を広げることを目指しています。来年は、これらの展示をはじめ、メディア露出や店舗・ECでのリユース促進キャンペーン等を展開し、リユースの魅力と価値の発信をさらに強化していく計画です。                                                                                                                                                                                                                                                                                     | <a href="https://allu-official.com/jp/ja/info/renews-project/">https://allu-official.com/jp/ja/info/renews-project/</a>                                                             |
| 62  | 株式会社バロックジャパンリミテッド     | リサイクル土壌を活用した事業展開                        | 当社では2021年からグリーンビジネスを展開しておりますが、その中で、廃棄される洋服から作った「ポリエステル繊維リサイクル培地」の販売、当該商品を使用した観葉植物の鉢植えの販売及びレンタルを行っております。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | <a href="https://www.tuin-greenery.com/sustainable">https://www.tuin-greenery.com/sustainable</a>                                                                                   |
| 63  | BBBRA合同会社             | ファッションとサステナビリティの両立                      | 生み出しているのに、振り返ると大量の廃棄に全力で追われていないか。ファッションを志す恐らく多くの方が抱く罪悪感ではないだろうか。B B B R A L L C . は、ファッション性やブランド価値を保ちながら極力無駄な在庫を出さず、最後の1着までどこで誰に売るかを考え、戦略を立て実行することを大切にしてきた。<br>【現在の取組】<br>B 2 B、B 2 C 双方の新品・リユースマーケット促進に貢献し、日本企業の海外出店支援、日本から海外企業向けのリユース品の買付、古着販売等を行う。また個人から不要となった衣類を受け入れ、フリーマーケットやリユースプラットフォームを通じて次の利用者に繋ぐ活動や、古着を中心としたスタイリング発信にも取り組む。<br>【目標設定】<br>国内外で連携して衣服の価値を再発見し長く循環させることで、ファッションとサステナビリティが自然に両立する社会を目指す。<br>【今後の取組】<br>古着販売や海外ファッション大学生のインターンシップ受け入れの継続とともに、パリを起点に各国のファッションウィークでサステナブルファッションをテーマにしたショールームを企画・運営し、日本のブランドやリユースの価値を国内外へ発信していく。                                                                                                                                                                                                              | <a href="https://bbbraweb.wixsite.com/store">https://bbbraweb.wixsite.com/store</a>                                                                                                 |
| 64  | 株式会社BPLab             | 衣類回収から再資源化までをつなぐ循環モデルの構築                | 株式会社BPLabは、衣類を「捨てない選択」へ転換することを目指し、企業・施設・自治体・大学等と連携した衣類回収と、回収後のリユース・リサイクルを一体で設計しています。ブックオフとの共同事業である、循環型回収ボックスR-LOOPの運営では、生活者が身近な場所で衣類を手放せる回収機会を広げ、回収後は状態に応じてリユースを優先し、再使用が難しい衣類はBIOLOGIC LOOPを通じて再資源化します。2026年度は環境省支援事業として、回収衣類の多段階循環と低品質繊維の新用途開発を実証。今後は回収拠点・連携企業の拡大、循環先の透明化、再生材を活用した商品化、生活者への情報発信を進め、「衣類は資源」という行動変容につなげます。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | －                                                                                                                                                                                   |
| 65  | 株式会社 東谷商店             | 東谷商店が行うリユース、リサイクルの促進                    | 衣類の回収を通じて社会にリユース、リサイクルの重要性を促す。弊社は故繊維業の立場から、回収した衣類を、自社工場で独自の選別手段を用いて、自社もしくは様々な取引先を通じて国内外でリユース販売を行い、リサイクルできるものは自社設備(反毛機)でリサイクルまたは取引先の企業にリサイクル素材を販売する。また、弊社は廃棄衣類を主原料に用いて独自の素材を開発することで、様々な企業との取り組みや、自社で製品を製造し販売しており今後も拡大予定。目標は弊社が回収元となり、企業からエンドユーザーまでリユース、リサイクルの重要性を促し、アパレル産業全体が抱える問題を変えたい。今後の取組については現在進行形の取組(高島屋とのスーツリサイクル事業、繊維商社とのWOOLリサイクル事業や、アパレル回収など)をより強化し、リユース拡大、自社リサイクル素材(日本では唯一のWOOLリサイクル100%糸やフェルトなど)を、アパレルやアパレル以外の様々な業界(ホテルやコスメなど)に拡大させたい。また素材や製品開発も積極的に行い国内のみならず、海外にも展開させたい。                                                                                                                                                                                                                                                                            | －                                                                                                                                                                                   |
| 66  | 株式会社ヒューマンフォーラム        | RELEASE & CATCH（リリースキャッチ）/手放し方に、選択肢を。   | RELEASE⇔CATCHは、家庭で不要となった衣類を回収し、地域内での再循環を促進することで、衣類の廃棄削減と循環型社会の実現を目指す事業です。<br>現在、全国に衣類回収BOXを設置し、回収した衣類を一点ずつ仕分けた上で、状態や用途に応じて様々な形で活用し、次の使い手のもとへつなげています。不要になった衣類をただ捨てるのではなく、価値を持つ資源として循環させる仕組みを構築しています。回収衣類を活用し、¥0マーケットや循環フェスなどのイベントを実施することで、地域住民が身近に循環を体験できる機会を創出しています。衣類を手放すことを次の人へつなぐ行動として定着させ、地域内循環の文化形成を目指します。<br>今後は、回収BOXの設置拠点の拡大、産官学連携を強化し、衣類が地域内で循環する仕組みをより広げていきます。イベントを通じて、回収された衣類が実際に再び誰かの手に渡る機会を増やし、地域住民の環境意識や行動変容につなげます。CO2排出削減への貢献や回収拠点の拡充を進めるとともに、地域内で衣類が循環する仕組みを継続的に構築し、「捨てる前に誰かにつなぐ」という選択肢を社会に定着させることを目指します。<br>現在、全国に衣類回収BOXを設置し、回収した衣類を一点ずつ仕分けた上で、状態や用途に応じて様々な形で活用し、次の使い手のもとへつなげています。不要になった衣類をただ捨てるのではなく、価値を持つ資源として循環させる仕組みを構築しています。回収衣類を活用し、¥0マーケットや循環フェスなどのイベントを実施することで、地域住民が身近に循環を体験できる機会を創出しています。衣類を手放すことを次の人へつなぐ行動として定着させ、地域内循環の文化形成を目指します。 | <a href="https://release-catch.com/">https://release-catch.com/</a>                                                                                                                 |
| 67  | 株式会社ファッションクロスフルシマ     | 誰もがおしゃれに楽しく簡単に、衣類のアレンジができる「e junkan」を運営 | 弊社は、衣料品廃棄の要因である「デザインへの飽き・汚れや破損・体型の変化」という課題に対し、「どんなブランド、どんな状態の服でも再び着用可能にする」ためのプラットフォームを運営しております。具体的には、自社での加工に加え、提携パートナーの技術（染め直し、修繕、サイズ直し、アップサイクル等）を集約し、あらゆる衣服の悩みを解決する体制を構築しています。<br>現在は事業者向けを中心に年間40万着以上の衣服再生を実現しておりますが、今後は一般消費者も手軽に利用できるシステム開発と体制構築に注力します。誰もが衣類の長寿命化に参加できる環境を整え、ファッションにおける「e junkan（良い循環）」を生み出します。これらの事業を通じ、2030年には年間100万着の衣服再生を目標に掲げ、廃棄削減に貢献します。洋服をアレンジしながら長く着用することが当たり前となる社会の実現を目指してまいります。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | <a href="https://drive.google.com/file/d/1bppnAIBD5nr9FGBtqU1_f9uj3b0Pv64F/view?usp=sharing">https://drive.google.com/file/d/1bppnAIBD5nr9FGBtqU1_f9uj3b0Pv64F/view?usp=sharing</a> |
| 68  | 株式会社フクル               | アパレルのエコサービスフィット                         | 株式会社フクルの展開するアパレルのエコデザインサービスFiTO（フィット）は、アパレル製品の企画・設計、生産、販売、修理、再利用までを一つにつなぎ、環境負荷の少ないものづくりを支援するエコデザインサービスです。衣服のデザインや素材、付属品、縫製工程、輸送方法などの情報をもとに、製造コストや二酸化炭素排出量を算定・見える化し、環境に配慮した素材選択や生産方法の改善を提案します。縫製料金の自動見積り、生産管理、製品情報の公開にも対応し、必要な数量を必要な分だけ作る少量・適量生産を実現します。これにより、過剰生産、余剰在庫、廃棄ロスの削減を目指します。また、FiTOリペアでは、アウトドアウェアなどを修理して製品寿命を延ばし、修理によって抑えられた環境負荷やCO2オフセットの価値も分かりやすく伝えます。トレーサビリティ情報の公開サポートも行いQRコードで、素材、製造背景、環境情報を利用者に届けることも可能です。FiTOは、企業の脱炭素化と循環型ファッションへの移行を実務面から支えるサービスです。ブランドの価値向上と、消費者に選ばれる持続可能な商品づくりを支え、地域の縫製産業にも貢献します。                                                                                                                                                                                                                                              | －                                                                                                                                                                                   |
| 69  | ブックオフグループホールディングス株式会社 | ①リユース店舗②R-LOOP③海外リユース店舗④繊維リサイクル         | ①リユース店舗「BOOKOFF PLUS」「BOOKOFF SUPERBAZZAR」で衣料品の買取・販売を行っております。買取専門店「rehello」「ハグオール」で衣料品の買取を行っております。「BOOKOFF宅配買取」で衣料品の宅配買取を行っております。②不要品回収ボックス「R-LOOP」の展開を(株)BPLabと協同で進めております。設置数は7月末時点で833拠点、順次拡大中です。③R-LOOPで回収した商品は、当社がマレーシアやカザフスタンで運営するリユース店舗「Jalan Jalan Japan(JJJ)」で次の人にお届けすることで現地の「楽しく豊かな生活」につなげております。JJJは現在マレーシア19店舗・カザフスタン7店舗の計26店舗、昨年度のJJJでのリユース量（雑貨・衣料）は5,200ト。JJJは「100店舗構想」掲げ、「日本のすてない社会」と事業性の両立が実現できております。④リユースが難しい衣料はBPLabの協力会社を通じて繊維リサイクルとして「商品化」、形を変えて生活者に新たな価値提供につなげております。                                                                                                                                                                                                                                                                         | <a href="https://www.rloop.jp/">https://www.rloop.jp/</a>                                                                                                                           |
| 70  | 株式会社Brand new day     | 「Repaired in Japan」の確立と三位一体のリペアインフラ構築   | 弊社は13年・7000着以上の衣類リペア実績で培った技術を強みに衣服の長寿命化に取り組んでおり、行政・企業・消費者が三位一体となった持続可能なリペア文化の確立を目指します。<br>【現在の取り組みと普及啓発】既に経済産業省「サーキュラーパートナーズ」への参画や個人のお客様からのリペア受託（BtoC）をはじめ、異業種と連携したケア＆リペアの「修理する権利」の啓発活動を進めるとともに、企業向け共通リペアハブ（BtoB）構築を推進しています。また、修理ノウハウのデータ化と職人の保全、育成を進め「Repaired in Japan」の実現を目指します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | <a href="https://repair.script-garden.com/">https://repair.script-garden.com/</a>                                                                                                   |

| NO. | 参加団体名                   | 事例タイトル                                  | 取組概要及び目標設定等並びに今後取組予定の事業                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 取組概要（URL）                                                                                                                                             |
|-----|-------------------------|-----------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 71  | 株式会社Blueprint one       | 一次産業由来素材と機能性で実現する衣服の長寿命化                | 当社は「moment of MILK／OCEAN」を通じ、過剰在庫の国産脱脂粉乳や廃棄漁具を衣料・服飾品へアップサイクルし、商品の背景、生産者の声、製造過程をウェブサイト、SNS、店頭・イベントで発信している。「課題を着る」体験を入口に、一次産業への理解と衣服への愛着を育み、価値ある一着を長く大切に使う行動を促す。脱脂粉乳由来繊維の衣料には撥水・防汚・速乾等の機能を付与し、清潔な外観を保ちやすくすることで着用期間の長期化と、洗濯・クリーニングの頻度や水・エネルギー使用量の削減を目指す。製造時の水使用量も一般的な綿製品より少ない可能性を確認しており、今後、比較条件を整えた定量検証と情報開示を進める。さらに飲食業界向けユニフォーム等へ展開し、多頻度利用の現場で耐久性、洗濯回数、水使用量を検証する。年1回、採用事業者数、導入点数、啓発発信・イベント実績、洗濯負荷低減の検証状況を公表し、生活者と事業者双方の行動変容につなげる。                                                                             | <a href="https://moment-of.com/">https://moment-of.com/</a>                                                                                           |
| 72  | 株式会社フレーベル館              | 子どもたちの遊びを応援！お着がえレンタルサービス「しゅらみい」でリユース推進  | 「子どもたちの健やかな育ちを支える」という企業理念のもと、保育施設向けお着がえレンタルサービス「しゅらみい」を通じたリユース推進と、環境意識の普及啓発に取り組んでいます。本サービスでは、保育園や幼稚園での泥遊びやボディペインティングの際、「服を汚しても大丈夫！」と安心して挑戦できる着替えを提供し、子どもたちが思いっきり遊んで知性や感性を育むことができる環境づくりを支えています。その基盤として、「令和6年度補正予算 使用済衣類回収のシステム構築に関するモデル実証事業」等での実績・知見を活かし、ご家庭で使わなくなった子ども服をレンタル衣類として繰り返し活用しています。今後もパートナー企業や各種団体等との連携を通じて、「しゅらみい」での日常的なリユース体験を広げ、子どもたちの伸びやかな育ちとサステナブルファッションの普及啓発に貢献してまいります。                                                                                                                     | －                                                                                                                                                     |
| 73  | 株式会社ホームドライ富山            | クリクル/エコカバー                              | クリクルはクリーニング×リサイクルで店頭にてお客様から不要なお洋服を回収しクリーニングして次の必要な方に無償または格安にてお譲りするサービスです。すでに4年ほど実施しています。また学生服、子供靴に特化したサービスも実施してます。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | <a href="https://homedry-toyama.co.jp/">https://homedry-toyama.co.jp/</a>                                                                             |
| 74  | 株式会社マーベラス・フロンティア        | 古着の回収・選別によるリユース・リサイクル                   | 弊社は、回収した古着を素材や状態ごとに選別し、まだ着用できる衣類はリユース品として活用しています。再利用が難しいものについては、ウエスや反毛原料など、衣類廃棄物の削減と資源の有効活用に取り組んでいます。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | －                                                                                                                                                     |
| 75  | 三起商行株式会社                | 子どものことを第1に考えた品質の高い製品づくりは環境にも良い。         | 子どものことを第1に考えた製品づくりということで、品質の高い素材作りや縫製にこだわってきました。これは結果として着用や洗濯の頻度が高い子供服においてお客様にとっても風合いはじめ型崩れや色あせしないお気に入りの製品につながっています。引き続きその取り組みをしながらお客様とは更にお取り扱いについての情報や、リペアサービスへの対応でより長く着ていただける環境をご提供しながら一緒に良いものを長く使うことを目指したいと思います。また二次流通などについても情報収集をしながら検討を深めたいと思います。同時に弊社は海外生産が98%をしめると言われる中、国内生産の比率がベビー衣料においてはほぼ100%に近いほど国内での丁寧なモノづくりを目指しておりますが、その生産時の裁断くずは基本は産業廃棄物になります。これを再利用してボードにしたり、紙にしたり、糸に再生やアップサイクルするなどの実証を進めています。さらに資源化やアップサイクルへの転用先の広がりを目指したいと考えています。                                                          | <a href="https://www.mikihouse.co.jp/pages/corporate-csr-environment">https://www.mikihouse.co.jp/pages/corporate-csr-environment</a>                 |
| 76  | 株式会社 MILKBOTTLE SHAKERS | デザインとテクノロジーでつなぐ衣服・繊維製品の長期利用と循環          | 株式会社MILKBOTTLE SHAKERSは「デザインとテクノロジーによる衣服・繊維製品の長期利用と循環」を掲げ、①NFC搭載バッグ「Loopach」でレジ袋辞退等の行動を可視化し、製品への愛着と継続利用を促進、②「oHOHo CYCLE PROJECT」で企業・自治体等と連携し、衣類回収拠点の整備・可視化、回収後のリユース・リサイクルを推進、③取引先との衣服・繊維製品開発で、再生素材・残生地・端材の活用、適量生産、長期使用、トレーサビリティを企画段階から実装しています。④公式サイトで情報発信中の「tsukumo」は、NFC／RFIDを活用し、衣服の着用・行動・修理等の履歴を可視化することで、長期利用と愛着形成を促すサービスとして、現在、社会実装に向けた開発・実証準備を進めています。今後は導入先、利用アクション、回収拠点・回収量、循環型企画の協業事例を毎年度把握し、継続的な拡大を目指します。Web・SNS、導入店舗・回収拠点、イベント、取引先との共同発信を通じ、生活者の行動変容を促します。                                        | <a href="https://milkbottle-shakers.com/">https://milkbottle-shakers.com/</a>                                                                         |
| 77  | 株式会社メルカリ                | 衣類の「捨てるをへらす」ーリユースの裾野を広げる体験と連携づくり        | 当社は「あらゆる価値を循環させ、あらゆる人の可能性を広げる」というミッションのもと、衣類分野では「捨てるをへらす」をキーマッセージに掲げ、フリマアプリ「メルカリ」を通じて、まだ着られる衣類を必要とする人へ受け渡す二次流通の場を提供し、家庭から廃棄される衣類の削減に取り組んでいます。生活者への意識醸成としては、環境に配慮した消費行動を呼びかける国際的な取り組み「グリーンフライデー」に賛同し、2020年から毎年11月に開催しています。アパレル関連企業とともに、不要な衣類を持ち寄って交換できる企画、リユース品の販売、お直しの相談、リユース行動による環境貢献度の可視化など、「捨てる」以外の選択肢を楽しみながら体験できる場を提供しています。また、リユースの裾野を広げるため、自治体と連携した衣類の分別回収やリユース導線づくりの検討に取り組んでいるほか、小学生や一般向けの啓発活動も実施しています。今後も、本制度のキャンペーンと連動し、グリーンフライデーの継続開催や、自治体・パートナーとの共同企画を通じて、「もう着ない服はリユースへ」という行動が当たり前になる社会の実現を目指します。 | <a href="https://about.mercari.com/press/news/articles/20251121-greenfriday/">https://about.mercari.com/press/news/articles/20251121-greenfriday/</a> |
| 78  | 株式会社Merone              | 女性の経済的・精神的自立とサークユラーエコノミー両立のスクール「Re:che」 | <取組概要> 株式会社Meroneは、女性の「経済的・精神的自立」支援とサークユラーエコノミーの推進を両立する、国内最大規模の女性向けリユーススクール「Re:che（リッシュ）」を運営しています。最大の特徴は、アパレル企業などが抱える「企業の余剰在庫と廃棄予定品」を引き受け、生徒が再販するアップサイクル事業である点です。企業は廃棄負荷を削減でき、生徒は安定した環境で収益を上げるという三方良しのエコシステムを構築しています。<目標設定等> 2026年8月現在で、生徒数2,700人を突破し、業界内最大規模に成長した生徒コミュニティに対し、単なる販売技術だけでなく、売り手としての品格やサステナビリティへの高い使命感を浸透させている点が私たちの強みです。今後は更なる生徒数の拡大により、継続的に市場に埋もれた価値を循環させ、大量廃棄社会からの脱却に貢献します。<今後の取組> 今後はアパレル領域に留まらず、多様な業界の余剰在庫へと対象を広げ、廃棄削減の輪をさらに拡大します。環境省の理念に深く賛同し、持続可能な消費社会の実現に向けた取り組みをより一層加速してまいります。       | －                                                                                                                                                     |
| 79  | 有限会社 森田屋縫製              | 障害のある人と縫製職人が、端切れを価値ある製品に再生する地域循環型ものづくり  | 有限会社森田屋縫製は、縫製事業と就労継続支援B型事業所「森田屋」を一体的に運営し、障害のある人と縫製職人が協働するものづくりを行っています。現在、縫製工程で生じるはぎれを再活用した布小物の制作・販売、衣料品を長く大切に着続けるためのリペア、障害のある人の感性や表現を生かしたパラアート作品の展示・販売等に取り組んでおり、これまでは主に口コミを通じて展開してきました。今後は、これらの取組を体系化し、展示販売会、地域住民が参加できるワークショップ、縫製工場と福祉施設の見学・交流企画等を通じて、広く周知・啓発していきます。また、学校、地域団体、企業等との連携を広げ、素材の来歴、修繕によって生まれる新たな価値、作り手の役割や物語を発信します。これらを、縫製技術、福祉、アートを結び付けた当社独自のブランドとして確立し、人と地域のつながりも生み出す持続可能なものづくり事業へ育てることを目標とします。                                                                                              | <a href="https://moritaya11.base.shop">https://moritaya11.base.shop</a>                                                                               |
| 80  | モリリン株式会社                | 100年以上の歴史をもつ繊維専門商社です                    | 当社は繊維専門商社としてアパレル・生活資材等を扱う一方、環境配慮型素材「BIOGRACE®」の開発や、モリリンエコプロジェクト（M.E.P）による「つかい、つくり、協業し、再利用する」循環型事業を推進しています。廃棄衣料のアップサイクル、旧制服の再資源化、FSC®認証林の保全などにも取り組みます。目標は、地球環境・資源を守り、持続可能な社会の実現に貢献することです。今後は、非アパレル・非繊維・海外分野の新規事業、スタートアップや異業種との共創、「モリカスタムプロ」等の二次加工サービス、循環型素材・建材事業を強化しています                                                                                                                                                                                                                                     | <a href="https://www.moririn.co.jp/">https://www.moririn.co.jp/</a>                                                                                   |
| 81  | la belle vie 株式会社       | フラッシュセールECを通じたファッションの余剰在庫循環と持続可能なリユース推進 | la belle vie株式会社は、国内最大級のフラッシュセールサイト「GLADD」「GILT」の運営を通じ、アパレルブランドの余剰在庫（デッドストック）を次のユーザーへと届けるインベントリーソリューション事業を展開しています。【取組概要・目標】ブランドの高品質な製品の廃棄を防ぎ、二次流通・リユースの受け皿となることで衣服の長寿命化と環境負荷低減に貢献しています。大量生産・大量消費から脱却し、価値ある在庫を適正な市場へ還元することで、ファッション業界の持続可能なサイクル構築を推進しています。今後は、年間を通じてより多くのブランドの余剰在庫を循環させ、環境への配慮とビジネスの両立をさらに強化することを目指します。【今後の取組予定】サステナブルを意識した特集やコンテンツ展開を強化し、ユーザーに対して「良いものを大切に長く着る」という意識を啓発します。また、価値ある一着と出会う体験の提供を通じ、捨てる選択肢が減るようなクローゼットの循環と、包括的なサステナブル消費を促すアプローチを拡大していきます。                                       | <a href="https://labellevie.jp/">https://labellevie.jp/</a>                                                                                           |

| NO. | 参加団体名                    | 事例タイトル                                  | 取組概要及び目標設定等並びに今後取組予定の事業                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 取組概要（URL）                                                                                                                                                                       |
|-----|--------------------------|-----------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 82  | 株式会社Landeo               | 廃棄衣類の完全再資源化！サーマルゼロを貫く企画・製造・販売モデル        | 当社は、廃棄衣類を破碎・炭化処理して焼却比率を約80％削減し、サーマルサイクルに一切頼らず「全量を再資源化」する点を最大の特徴としています。<br>【現在の取組】<br>農業展開： 製造した土壌改良材を自社・提携農園で活用し、収穫した野菜を顧客の社食等へ販売しています。<br>アパレル展開： 炭を練り込んだ「炭の糸」を開発。2026年6月のパコレ出展ブランドに採用され、2027年モデルとして販売を開始しました。<br>地域GX活動： 苫小牧市やプロアイスホッケー「レッドイーグルス北海道」と連携し、炭の糸Tシャツの製造・販売や、選手参加型の野菜作りを実施。また、小学生へのリサイクル教育を兼ねたアリーナ周辺への土壌改良材散布を行っています。<br>【今後の目標と事業展開】<br>現在、廃棄衣類由来の炭を活用した「新たな建材」の研究開発を進めており、本プロジェクトを今後の事業の強固な柱へと育成していく方針です。                                                                                                        | <a href="https://landeo.co.jp/">https://landeo.co.jp/</a>                                                                                                                       |
| 83  | 株式会社RECORE               | 全国837店舗の実取引データで衣類リユースの環境価値を可視化する基幹システム  | 弊社は小売・リユース事業者向けクラウド基幹システム「RECORE」を全国約500社、約1800店舗に提供しています。うち275社837店舗が衣類・服飾雑貨を取り扱い、2025年には約127万点（重量換算約550t）が当システムを通じて次の使い手へ再流通しました。<br>また、この実取引データを用いて、リユースによるCO2削減量・水削減量・廃棄回避量を市区町村単位で試算する取組を進めており、2025年は衣類・服飾雑貨で約9,210t-CO2eqの削減効果を算出しました。算定根拠・前提・限界は方法論書として文書化しております。（現状の算出ロジックは自社による算出）<br>今後は、自治体や関係機関とも連携しながら算定手法の妥当性を高め、リユース事業者が自店の環境貢献を過度な負担なく把握できる形を目指して検討を進めてまいります。あわせて「もう着ない衣類はリユースへ」という行動変容を、実データの裏付けとともに自社コラム・プレスリリース・SNSを通じて発信していきます。                                                                             | <a href="https://recore-corp.jp/">https://recore-corp.jp/</a>                                                                                                                   |
| 84  | 株式会社 RitzSolutionPartner | 志し                                      | 使われなくなったモノを単なる不用品としてではなく、新たな価値を持つ資源として見出し、必要とする人や企業へとつなげます。また、リユース業を通じて、人とモノの可能性を広げ、資源の有効活用と循環型社会の実現を目指します。手放す人に安心を、受け取る人に喜びを、そして社会全体に新たな可能性を。私たちは、リユースを通じて社会に役立つ企業として、より豊かな未来を実現していきます。BtoC事業を通じて「人か人へ」の想いをつなぎ、BtoB事業を通じて社会の流通を支える。その両輪で、資源の有効活用を推進し、循環型社会の実現に貢献します。一つひとつの取引を超えて、社会全体に価値を提供し続ける。それがリッツソリューションパートナーの使命です。                                                                                                                                                                                                       | ー                                                                                                                                                                               |
| 85  | 株式会社ルックホールディングス          | ルックグループのサステナビリティについて                    | ルックグループでは、マテリアリティ（重要課題）として、①環境に配慮した事業活動の推進 ②働きがいや成長を実感できる環境づくり ③人権と多様性の尊重 ④誠実で公正な事業活動 ⑤安全で信頼のある品質・サービスへの責任 の5つを特定し、サステナビリティへの取り組みをより一層推進するとともにサステナビリティ課題の解決に向けて取り組んでおります。特に力を入れているのは、【温室効果ガス（GHG）削減の取り組み】です。気候変動の要因とされる温室効果ガス（GHG）排出量の削減に向けた第一歩として、国内グループ連結範囲での排出量の算定を行い、削減目標及び削減へのアクションプランを定めました。国際的な温室効果ガス排出量の算定基準である「温室効果ガス（GHG）プロトコル」に準じ、温室効果ガス排出量を算定しており、2030年までの目標として「SCOPE1-2」のCO <sup>2</sup> 削減量を2022年比35%減少を目指しています。そのために、再生エネルギー由来の電力導入や節電及びLEDへの切り替えを順次行い、グループ全体で目標達成に向けて取り組みます。                                    | <a href="https://www.look-holdings.jp/csr/">https://www.look-holdings.jp/csr/</a>                                                                                               |
| 86  | 株式会社ルミネ                  | anewloop（アニューループ）                       | 【anewloopとは】<br>anewloop（アニューループ）は、ルミネ・ニューマンのリアル店舗、及びアイルミネで、お客さまの不要になったファッションアイテムを買取・回収し、リユース・リサイクルにつなぐ、資源循環のプラットフォームサービスです。ルミネはお客さまの身近な場所に「循環のインフラ」を構築することで、循環型社会の実現に貢献してまいります。<br>【背景】<br>日本国内で家庭から排出される衣服の約68％が廃棄処理されており、リユースやリサイクルといった資源を再利用するための取り組みの浸透が遅れていることが社会的な課題となっています。（＊環境省「令和6年度循環型ファッションの推進方策に関する調査」より）ルミネはこのようなファッションに関わる課題に取り組み、「ファッションを楽しむこと」と「地球環境に与える環境負荷を減らすこと」を両立したいと考え、「新しい循環」を意味する「anewloop」のサービスを開始しました。                                                                                               | <a href="https://www.lumine.ne.jp/uploads/pdfs/lumine/000061/000061/anewloop_overview.pdf">https://www.lumine.ne.jp/uploads/pdfs/lumine/000061/000061/anewloop_overview.pdf</a> |
| 87  | 株式会社レインボーシェイク            | プロダクトの循環と次世代教育による持続可能なファッションへの取り組み      | 株式会社レインボーシェイクでは、プロダクトと教育の両面から、持続可能なファッション産業の実現に向けた取り組みを進めています。<br>自社ブランド「nori enomoto」では、廃棄予定の革や製造過程で生まれる端材などにアーティストの表現を加え、新たな価値を持つプロダクトとして再生する「Second Skin Collection」を展開しています。<br>また、自社ジュエリーブランドにおいても、持続可能性を意識したプロダクト開発に取り組んでいます。<br>さらに代表の山田は、文化服装学院、バンタンデザイン研究所、大阪文化服装学院等で非常勤講師を務め、年間300名以上の学生にファッションビジネスの教育を行っています。<br>今後は自社での取り組みをさらに発展させるとともに、サステナブルファッションに関する知識や実践を教育現場にも還元し、次世代とともにファッション産業の新しいあり方を考えていきます。                                                                                                            | <a href="https://soen.tokyo/fashion/news/norissecondskin260714/">https://soen.tokyo/fashion/news/norissecondskin260714/</a>                                                     |
| 88  | 株式会社ワールド                 | 「ワールド・ファッション・エコシステム」によるアパレル産業の循環・脱炭素モデル | 【取組概要】<br>株式会社ワールドは、「生活文化の多様性」と「ロス・ムダのない持続可能な社会」の両立を目指し、原材料の調達から製造、物流、販売、使用後の回収・再利用に至るまで、衣料品のライフサイクル全体を捉えた「ワールド・ファッション・エコシステム」の構築を進めています。GHG排出量の可視化、循環素材の活用、衣料品の回収・リユース・リサイクルを通じて、環境負荷の低減と資源循環を推進しています。<br>【目標】<br>2030年までに、Scope 1・2の排出量を2018年3月期比で50％削減するとともに、Scope 3の排出量をアパレル製品1点当たり20％削減することを目指しています。また、自社製品に限定せず、年間1,000万点の衣料品を回収・活用することを目指しています。<br>【今後の取組予定】<br>循環素材を活用した製品の開発・採用を拡大するとともに、使用済み衣料品や生産工程で発生する残布・廃材を新たな繊維・製品へと再生する「繊維to繊維」のアップサイクルに着手します。OEM・ODMを含む上流工程の繊維関連取引先をはじめ、異業種とも連携し、衣料品の資源循環とサプライチェーンの脱炭素化を推進します。 | <a href="https://corp.world.co.jp/csr/world_sustainabilityreport.pdf">https://corp.world.co.jp/csr/world_sustainabilityreport.pdf</a>                                           |
| 89  | ワールド・モード・ホールディングス株式会社    | つながりから生み出す、ファッション・ビューティーのサステナビリティ       | ワールド・モード・ホールディングスは、その事業内容やネットワークを活かし、ファッション・ビューティー業界のサステナビリティな変革を支えてまいります。<br>当社は、人材・教育・店舗運営・店舗デザイン、宣伝PRなどを通じ、消費者の方々にファッション・ビューティーの商品やサービスの価値を直接伝えています。各ブランド・リテール企業のサステナブルな活動や商品の価値を伝えるとともに、販売員への教育、循環型素材を用いた店舗づくり、宣伝PRなど、消費者の理解と行動変容につなげる取り組みを進めています。<br>業界の変革には、企業の取り組みだけでなく、消費者の理解と購買行動の変化が不可欠です。取引先約1,600社、登録人材約50万人、パートナー数：900（企業・個人）、就業者約10,000名、全国・海外の拠点網というネットワークを活かし、多様なステークホルダーをつなぎながら、新たな価値を生み出していきます。<br>今後はNGO、専門家、自治体等との連携もさらに進め、ファッション・ビューティー産業を通じて社会・環境課題の解決に貢献してまいります。                                         | <a href="https://worldmode.com/jp/sustainability/">https://worldmode.com/jp/sustainability/</a>                                                                                 |

| NO. | 参加団体名                       | 事例タイトル                               | 取組概要及び目標設定等並びに今後取組予定の事業                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 取組概要（URL）                                                                                                                                   |
|-----|-----------------------------|--------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1   | CSR&コンプライアンス研究フォーラム         | サプライチェーンの環境・社会的DD実証と持続可能な循環型社会形成への取組 | 本団体は、サプライチェーンにおける環境保護、人権尊重、労働安全衛生を内包した「世界標準サプライヤー取引行動規範（CoC）」の確立、および第三者認証を含むモニタリングシステムの普及を目指す。特に繊維製品等の化学物質管理や品質トレーサビリティの確保、生態系配慮スキームの評価検証を通じ、企業の環境・社会的デューデリジェンスの有効性を実証する。これにより、国内外の商取引における相互信頼と持続可能な互惠関係の構築に寄与することを目的に活動している。具体的な活動実績として、過去107回に及ぶ「CSR &コンプライアンスフォーラム」（うち10回は国際フォーラム）を開催し、産官学の知見共有を図ってきた。また、専門委員会による基準策定や、世界の最新サステナビリティ情報の配信を通じ、業界全体の意識底上げを牽引している。今後は、環境省が推進する「第五次環境基本計画」等の動向を踏まえ、リユース・リサイクルの更なる高度化を図る。循環型社会の形成と維持に向け、会員各企業における具体的な資源循環の事例研究と社会実装に取り組み、持続可能なバリューチェーンの構築に貢献する。                                                         | －                                                                                                                                           |
| 2   | 一般社団法人ジャパンサステナブルファッションライアンス | 着なくなった衣服の次の使い道を探せる「回収拠点」検索ページ        | JSFAでは、ファッションロスゼロとカーボンニュートラルを共通目標に掲げ、ファッション産業のサプライチェーンに関わる多様な企業が連携し、資源循環や脱炭素をはじめとする業界共通課題の解決に取り組んでいます。会員企業間での知見共有やワーキンググループでの検討、ガイドライン等の策定、関係省庁との対話・政策提言に加え、生活者の行動変容につながる情報発信にも取り組んでいます。その一環として、衣服を長く大切に使い、使用後も循環させるための選択肢を生活者にわかりやすく提供することを目的に、会員企業が実施する衣服の「リペア」「買取」「回収」の拠点を検索できるページを2026年6月に公開しました。全国47都道府県を網羅し、対応サービスやエリア、ブランド・拠点名などから、ニーズに合った拠点を検索することができます。今後、より多くの生活者に活用いただけるよう発信を行なっていきます。                                                                                                                                                     | <a href="https://jsfa.info/shop/">https://jsfa.info/shop/</a>                                                                               |
| 3   | Switch愛媛                    | 環境を学びながら行動につなげる地域プロジェクト              | 愛媛を環境に優しい社会へ「スイッチ＝切り替える」学びと実践の活動をする任意団体です。企業・団体と連携し愛媛に新しいアクションの波を広げます。代表の白石の専門分野である「ファッション」を切り口に、2023年から愛媛県内でCSRや地域貢献を形にする共創の場づくり、一人ひとりの小さな行動から大きな渦を生み出す活動を続けています。これまで、講座の運営、学校での講演などをおこなってきました。今年度は、すでに愛媛FCとの協業により、ホームゲームの10月25日に衣類の回収、12月5日に愛媛県西条市にて服の作る～手放すまでを体験するイベントを県内の事業者や学校とともに実施予定。今後も年1回以上を目安に同様の取り組みをおこなっていく予定です。                                                                                                                                                                                                                          | <a href="https://www.instagram.com/switch_ehime/">https://www.instagram.com/switch_ehime/</a>                                               |
| 4   | 認定NPO法人中部リサイクル運動市民の会        | 環境と福祉の連携による、使用済衣類の循環を通じた「地集地活」事業     | ①自治体と連携した公共施設等での回収BOXの設置<br>【事業内容】<br>環境省「令和6年度補正予算 使用済衣類回収のシステム構築に関するモデル実証事業」の採択を受け、名古屋市と連携して市内の公共施設等に使用済衣類回収BOXを設置。弊会が運営する既存の資源回収システムの物流網を活用した効率的な収集運搬による回収を実現した。<br>【今後の予定】<br>更なる拠点数増設を目指す。<br>②リユース促進と障がい者支援を目的としたチャリティショップの運営<br>【事業内容】<br>市民から寄付された不用品をボランティアの協力で仕分け販売し、その収益を非営利活動に活用。<br>市内で7店舗運営し、うち3店舗が直営店舗で4店舗は障がい者就労支援団体との連携店舗。<br>「リユース」と「障がい者支援」を同時に推進し、不用品を寄付した市民は間接的に社会貢献に寄与できる仕組みとなっている。<br>【今後の予定】<br>連携店舗の拡大を目指す。<br>③衣類循環をテーマとした環境イベント「循環フェス名古屋」の企画運営<br>【事業内容】<br>地域の大学生・企業・自治体と連携し実行員会を組織し、衣類の地域内循環拡大を目的とした環境イベントとして企画運営を行っている。 | －                                                                                                                                           |
| 5   | テキスタイル情報流通プラットフォーム          | テキスタイル情報流通プラットフォームの構築                | 昨年度までサークュラーパートナーズの事業として、資源循環情報流通プラットフォームの構築について基本仕様の検討を進め、本年度からは、NEDO事業としてテキスタイル情報流通プラットフォームの構築を進めている。本事業はデロイト・トーマツが受託し、東レが再委託されている。現在、概念実証に向け、様々なステークホルダーへのヒアリングを実施中。パートナー制度においては、実施事業のアウトリーチ活動として、事業進捗のPR及び新たな参画者を広く求めたい。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | －                                                                                                                                           |
| 6   | 特定非営利活動法人とよなか市民環境会議アジェンダ21  | 大阪府豊中市における子ども服リユース「おゆずりぐるり」の取組み      | 家庭で不要となった子ども服を公共施設等の常設拠点やイベント等で回収し、回収した子ども服は、常設拠点やイベントでの配布、地域団体等への提供を通してリユースを推進する。環境省の使用済衣類回収のシステム構築に関するモデル実証事業（令和6年度補正予算／令和7年度実施）では、取組みの実施状況が子ども服の配布 12,794枚、回収 14,992枚、参加者 3,774人であり、事業の効果が豊中市の資源化可能な繊維類の約0.36%相当（市内全体）、子ども服配布による家計支援の効果 約590万円相当（概算）などであったことから、令和8年度は同様の取組みを年間を通して実施することで、令和7年度実施のモデル事業を超える実施状況、事業の効果を得ることをめざしている。また、Instagram等を活用した子ども服リユースに関する情報発信や、小学校への出前授業についてもあわせて実施していく。                                                                                                                                                    | <a href="https://www.instagram.com/oyuzuri_gruri/">https://www.instagram.com/oyuzuri_gruri/</a>                                             |
| 7   | 一般社団法人日本アダプティブファッション協会      | 共生社会の実現に向けて－衣服循環を起点としたファッションショーの取組－  | ■ 当協会のビジョン 当協会はアダプティブファッション（≒障害者向けファッション）の普及・啓発を通じ、多様な個性を受け入れる共生社会の実現を目指している。<br>■ 課題：法整備と現場の乖離<br>国や国連による法やガイドラインの整備は進むが、法律は文字にすぎず現場との乖離が大きい。背景には障害者との接点の乏しさによる心の障壁（バリア）があると考えられる。<br>■ 取り組み：ファッションを通じた接点の創出<br>そこで当協会は、ファッションを通じて接点を創出している。教育機関等と連携して衣服を回収し、インクルーシブデザインでリメイクした衣装をファッションショーで発表することで多様な人々の参画を促し、心のバリアフリーと共生社会への足がかりを築いている。また、回収衣料の一部販売も行っている。<br>■ 今後の展望<br>衣服の回収・販売を強化し、衣服循環の推進による活動の発展と継続性、そして共生社会の実現に貢献したい。将来的には障害者雇用を視野に入れたスリフトストア展開や福祉施設との連携拡大にも取り組みたい。                                                                          | <a href="http://adaptivefashion.jp/">http://adaptivefashion.jp/</a>                                                                         |
| 8   | 一般社団法人日本アパレル・ファッション産業協会     | アパレル・ファッション業界へサステナブル活動の取組を啓発         | ＜JAFICこれまでの活動・今後の計画＞<br>JAFICは、アパレル商品のリサイクルに取り組むため、2000年に環境対策委員会を発足し、調査研究を開始しました。生活者・産業界へのアンケートや関連事業者へのヒアリングを行い、業界のリサイクルの実態を把握。2001年には、川上・川中・川下の関係者や関係団体と「アパレル・リサイクル・システム開発委員会」を設置し、「リサイクル配慮設計」「リサイクルマーク」等を検討しました。その成果を会員企業への啓発や衣料品回収活動につなげ、業界の資源循環を推進してきました。近年は産経新聞が主催する「ふくのわプロジェクト」にも協賛し、衣料品回収を推進しています。<br>今後は、経済産業省・環境省の「繊維製品における資源循環ロードマップ」を踏まえ、「JAFIC環境配慮情報開示ガイド（仮称）」を策定します。併せて、GHG排出量の算定・把握を会員企業に促し、環境配慮型素材の採用や資源循環に関する情報提供・啓発を進め、業界全体の環境対応と持続可能なファッション産業の実現を支援します。                                                                             | <a href="https://www.jafic.org/projects/environment/ghg_guidelines2025/">https://www.jafic.org/projects/environment/ghg_guidelines2025/</a> |

| NO. | 参加団体名                        | 事例タイトル                                 | 取組概要及び目標設定等並びに今後取組予定の事業                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 取組概要（URL）                                                                                                                           |
|-----|------------------------------|----------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 9   | 日本サステナブルシルク協会                | 日本の蚕糸業を100年後の未来に繋げるために、根底から再構築に向けた普及啓発 | 私たちは、日本の絹の価値を社会に伝え、日本の蚕糸業の川上から川下までのものづくりの可能性を失くさずに次の世代に繋げていくために一丸となり取り組むべく、想いを同じくするメンバーと日本サステナブルシルク協会を設立しました。<br>ミッション<br>「日本の蚕糸業を100年後の未来に繋げる」ビジョン<br>①日本の蚕糸業の生業としての維持・発展に貢献する<br>②日本の蚕糸業を後世に継承するため後継者の育成と認知度向上に貢献する<br>事業内容<br>(1)蚕糸業の振興と教育普及のためのイベント・企画の運営<br>(2)蚕糸業者に関わる情報が集まるウェブサイトの企画・運営・管理<br>(3)その他当法人の目的を達成するために必要な事業                                                                                                                                                                                                                                      | －                                                                                                                                   |
| 10  | 一般社団法人 日本サステナブルリペア協会         | 「なおして使い続ける」文化を広げるリペア産業基盤づくり            | 一般社団法人日本サステナブルリペア協会（JSRA）は、衣類・靴・バッグ等を「なおして使い続ける」文化を社会に根づかせ、修理・お直し産業の社会的価値向上と循環型社会の実現を目指す業界横断型団体です。技術の標準化・品質保証、人材育成、行政・教育機関・企業との連携、広報・イベント等を通じ、生活者が廃棄する前にリペアを選択できる環境づくりを進めます。今後は、修理品質の評価基準や施工標準等の整備、技能・教育プログラムの検討、会員企業との共同イベント・普及啓発、アパレル・小売・自治体等との連携実証を推進します。リペアを特別な行為ではなく日常の選択肢として定着させ、衣服等の長寿命化と廃棄削減に貢献することを目標とします。                                                                                                                                                                                                                                                 | <a href="https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000001.000186642.html">https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000001.000186642.html</a> |
| 11  | （一社）日本繊維機械学会・繊維リサイクル技術研究会    | 「私たちのSDGs～繊維製品の循環をめざして」                | 2001年に（一社）日本繊維機械学会の内部組織として繊維リサイクル技術研究会を発足した。現在、産官学関係者約100名（社）の会員で構成されている。2022年、研究会の一組織として若い方々（主に大学生）が繊維製品の循環を自分事として日常生活の中で考える機会を作るために関西の大学の先生方を含む学生達とTeamエンウィクルを結成した。現在、14大学、約100名の学生が所属している。2022年より工場廃材、古着を含む様々な繊維廃材を資源として捉え、回収から資源化までを学生中心に考え、京都や大阪の商業施設のオープンスペースや京都文化博物館のホールを借り切って自分達が制作したプロダクツを披露するファッションショーやワークショップ、講演会などを実施してきた。これらの活動は2026年3月に環境省が発表した使用済み衣類の回収に関するグッドプラクティス集にも取り上げていただいている。今年度も9月3日～5日に大阪の商業施設で同様のイベントを開催することになっている。今後はさらに参加大学（学生）を増やすとともに古着の資源化（サステナブルファッション）を学生達とともに考え、社会に訴えていく予定である。                                                     | <a href="https://tmsj.or.jp/labo/recycle/recycle-index.html">https://tmsj.or.jp/labo/recycle/recycle-index.html</a>                 |
| 12  | 日本繊維産業連盟                     | サステナブルファッションの業界・行政取組の情報共有              | サステナブルファッションの業界・行政取組について委員会にて情報提供し意見交換を実施。今後も同様の取り組みを継続していく予定。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | －                                                                                                                                   |
| 13  | 一般社団法人日本テキスタイルデザイン協会（TDA）    | TDA ミミプロジェクト                           | TDAは「日本のテキスタイルデザインの質を高めることによって、生活文化の向上と産業の発展に寄与する事を目的とする団体である」を理念としながら、活動しております。<br>1.日本文化の発信と会員のデザイン活動の発信・支援の推進<br>2.社会貢献と世界に向けた日本のテキスタイルを発信していくための対外的な活動の推進<br>時代の概念が大きく変わろうとしている今、「繊維・ファイバー」が果たす役割は今後ますます限りなく広い分野に及び、デザインという行為は其中でひと際大きな役割を担う事になると思います。私たちは「繊維・ファイバー」という 素材＝テーマを持ち、ともに「テキスタイルデザイン」を扱う個人・法人・機関に対し、「未来社会」に向かって「豊かな生活文化の創造」を目指し、積極的な発言と行動を起こす活動を行っていきたいと考えています。<br>『ミミ・プロジェクト』は繊維工場の廃棄物である生地耳に、デザイン力、技術力そして協会（TDA）ならではのネットワークを最大限に活かし、新たなテキスタイルとしての価値を見出す。更にその取り組みを社会に発言する価値創造に挑戦する事を目的に行っている活動になります。                                               | <a href="https://tdamimipro2021.wixsite.com/tdamimiproject">https://tdamimipro2021.wixsite.com/tdamimiproject</a>                   |
| 14  | 一般社団法人日本百貨店協会                | －                                      | 環境に配慮した商品の充実などを推進する                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | <a href="https://www.depart.or.jp/">https://www.depart.or.jp/</a>                                                                   |
| 15  | 一般社団法人日本フェアトレード・フォーラム        | フェアトレードの視点から広げるサステナブルファッション            | 一般社団法人日本フェアトレード・フォーラム(FTFJ)は、フェアトレードタウン・大学・スクール等の全国ネットワークを活かし、衣服の生産に関わる人々の権利、公正な取引、サプライチェーンの透明性を含むサステナブルファッションの理解促進に取り組みます。2026年度は、認定地域・教育機関等におけるフェアトレード衣料、制服のアップサイクル、未利用生地の活用等の事例を3件以上収集し、ウェブサイト及びSNSで紹介します。あわせて、環境配慮だけでなく、生産者・労働者の人権や第三者認証の意義を学が記事またはオンライン勉強会を1件以上実施し、キャンペーンと連携して生活者の行動変容につなげます。                                                                                                                                                                                                                                                                  | <a href="https://fairtrade-forum-japan.org/">https://fairtrade-forum-japan.org/</a>                                                 |
| 16  | 一般社団法人日本リ・ファッション協会           | 服育でつなぐ、衣類の長期使用と地域循環                    | 一般社団法人日本リ・ファッション協会は、2009年の設立以来、服の生産背景や環境・人権との関わりを学び、衣類を長く大切に使い、地域で循環させる「服育」を推進しています。服育講座は学校、行政、企業、市民団体等で累計約85回、延べ約1,250人が受講しました。2010年に衣類回収・循環事業を開始し、最大時には年間約600トンを取り扱いました。回収した衣類は、被災地や途上国への支援、アップサイクル商品やリメイク体験の材料など、社会課題の解決に活用しています。特に支援活動では、衣類を単に届けるだけでなく、モノを通して支援する側と支援を受ける側の心をつなぎ、双方に喜ばれる関係づくりを大切にしています。現在は輸送に伴うCO2排出を抑えるため、広域大量回収から集団回収・地域内循環へ転換しています。2026年度は服育講座の受講者を延べ300人以上とする目標を掲げ、既に230人の受講が確定しています。衣替えに合わせた啓発・集団回収を年間2回以上、Web・ブログ・SNSでの発信を年間24回以上行い、パートナーとの連携事業を年間6件以上実施します。                                                                              | <a href="http://www.refashion.jp/">http://www.refashion.jp/</a>                                                                     |
| 17  | 八王子市地球温暖化防止活動推進センター          | サステナブルファッションフェスティバル                    | 【取組概要】<br>衣服の生産・消費・廃棄に伴う環境負荷の低減に向け、市民参加型の企画として、「サステナブルファッションフェスティバル」を毎年開催しています。内容としては、事前に八王子市内の複数の子育て支援施設で回収した子ども服の無料譲渡会をはじめ、市内の大学生による古着リメイクのファッションショー、制服端切れを活用したコサージュづくり等のワークショップ、布おむつの紹介・おゆずりなどを行っています。<br><a href="https://tinyurl.com/439cacdf">https://tinyurl.com/439cacdf</a><br>また、サステナブルファッションフェスティバルから独立した形で、八王子市内の大手スーパーと協働して、子ども服無料譲渡会を個別実施しています。<br>【取組目的】<br>八王子市の「ゼロカーボンシティ宣言」に基づき、衣類のゴミ削減と資源循環を通じてCO2排出量を削減し、地球温暖化防止に寄与することを目的としています。全国トップクラスのリデュース・リサイクル実績を持つ八王子市の強みを活かし、地域におけるリユースの循環を促すとともに、市民一人ひとりが「衣服を長く大切に着る」「資源物として循環させる」行動を定着させることを目指しています。 | －                                                                                                                                   |
| 18  | 一般社団法人 FASHION BANK          | 新品衣類の循環を通じたファッションロス削減                  | 一般社団法人FASHION BANKは、企業等で余剰となった新品衣類を受け入れ、自治体、児童福祉施設、生活支援団体等と連携して、衣類を必要とする方々へ届ける取組を行っています。市場で活用されずに廃棄される可能性のある衣類に新たな行き先をつくることで、ファッションロスの削減と衣類の有効活用を推進するとともに、受け取る方の尊厳や自己表現の機会につなげることを目指しています。今後は全国の支部、自治体、企業及び福祉関係機関との連携を拡大し、衣類の受入れ・寄贈体制を強化するとともに、活動報告やイベント、ウェブサイト、SNS等を通じて、衣類を廃棄せず社会の中で循環させる意義を広く発信します。                                                                                                                                                                                                                                                               | <a href="https://fashionbank.or.jp/">https://fashionbank.or.jp/</a>                                                                 |
| 19  | ファッションビジネス学会 FashionGood研究部会 | サステナブルファッションの研究、イベント企画                 | ■概要<br>ファッションビジネス学会内にある研究部会である。当研究部会はファッション産業のGood（持続可能性）を環境・社会・経済など様々な角度から捉え研究活動や勉強会を実施している。また、FashionGood lab.の屋号でイベント企画・運営を行っている。サステナブルファッションのハブとなるイメージで多様な視点からゲスト講師を呼び学びを深めている。<br>■今後の取組<br>(1)サステナブルファッションに関する研究者のネットワークの拡大を目指す。<br>(2)サステナブルファッションの研究を進め、学会への投稿や発表を行う。<br>(3)研究会・勉強会の実施。<br>(4)サステナブルファッションについてのイベント企画・運営。これまでコラボイベントを含め20回以上イベントを重ねてきた。その知見を生かし発展させる。                                                                                                                                                                                       | <a href="https://peatix.com/group/10209971?lang=ja-jp">https://peatix.com/group/10209971?lang=ja-jp</a>                             |

| NO. | 参加団体名                                  | 事例タイトル                                 | 取組概要及び目標設定等並びに今後取組予定の事業                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 取組概要（URL）                                                                                         |
|-----|----------------------------------------|----------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 20  | 一般社団法人Blue Earth Alliance              | 衣類回収と耕作放棄地再生をつなぐ地域完結型の資源循環             | 当法人は「地着・地消・地循」を掲げ、地域で着られた衣類を地域内で資源化し、地域の農地と経済へ還す地域完結型の資源循環プラットフォームを構築しています。株式会社村田製作所の100%子会社である株式会社ビエクレックスの循環インフラ「P-FACTS」と連携し、①衣類回収ボックスの設置及び回収物流の構築、②使用済み衣類の堆肥化及び資源化、③堆肥化パートナー（Hub農園）の開拓及び運営支援、④耕作放棄地を活用したコットン等の栽培及び収穫イベントの開催（環境教育・地域交流）、⑤企業・自治体等との連携による認定パートナー制度（4ランク）の運用、⑥普及啓発及び環境教育を行っています。奈良県では社会福祉法人愛和会の農園で、回収した使用済み衣類を堆肥化し、その堆肥で育てたコットンを園児が収穫する循環サイクルを実証しました。今後は、耕作放棄地を活用したコットン栽培と、収穫したコットンを用いた衣類の製品化を優先して進めます。あわせて認定パートナー企業・自治体との連携を広げ、衣類回収拠点と堆肥化パートナー（Hub農園）の開拓を通じて、廃棄衣類を地域の資源として再生する仕組みの社会実装を進めてまいります。 | <a href="https://blue-earth-alliance.com/">https://blue-earth-alliance.com/</a>                   |
| 21  | 一般財団法人ボークン品質評価機構                       | サステナブルファッションを試験と知見でサポートする第三者機関の活動      | 私たちは、循環型ファッションの導入をめざす企業の皆さまを、第三者機関の立場から支援いたします。試験部門では、素材特性、耐久性、洗濯性、分解性など、循環型に欠かせない要素を試験・検査によって客観的に示し、製品の透明性を高めるためのデータを提供しています。取り扱い情報サービスでは、衣類の循環性を高めるために、適切な絵表示やお手入れ方法をサポートしています。また、繊維製品をはじめシューズやバッグなどのアイテムに関する、様々な情報発信を実施しています。これらの既存事業を継続し、循環型の実装に必要な基盤づくりを支えることが私たちの役割です。<br>目標として、試験・検査を通じた信頼性の高いデータ提供をさらに強化することに加え、今後は、循環型に特化したセミナーを継続的に開催し、企業の実務に役立つ知見を発信します。また、展示会やイベントで循環型ファッションの啓蒙活動を行い、企業と生活者双方の理解を深める取り組みを進めます。                                                                                       | <a href="https://www.boken.or.jp/">https://www.boken.or.jp/</a>                                   |
| 22  | 特定非営利活動法人まち・ネット・みんなの広場                 | 子ども服リユース活動「おさがりクローゼット」                 | 東海市リサイクル推進課との協働事業で3R事業に取り組んでおります。取り組みの一つとして3年前より子ども服とマタニティウェアを回収し市民がおさがりとして活用できる「おさがりクローゼット」を市民活動センターにて展開しております。同時に3Rイベント開催時においても強化イベントとして回収と持ち帰りを行っています。活用先は市民だけでなく支援を必要とする児童養護施設や重心施設にもお渡しし、どんな環境の子ども達も服を選ぶ楽しさを与えることも目標としています。活動は3年目に入り広がっております。現在累計約5500枚の服を活用しました。着用できない服は資源化しています。また、環境教育の一つとして子ども達にも3R講習のテーマにサステナブルファッションを取り上げました。今後はさらに多くの方に参加いただけるよう、ターゲットをしぼった活用先や宣伝先を検討し、東海市内全ての方々に周知してもらえるように活動を広げていきたいと考えています。サステナブルファッション・パートナーとして登録させていただければ、より市民の方々が安心して服を寄付してくださると思います。引き続き活動強化に務めて参ります。         | <a href="https://tokai3r.org">https://tokai3r.org</a>                                             |
| 23  | まつやまこどもエコクラブ                           | 服のタグから地球をつなぐ！こども向けワークショップ              | 総合的な学習の時間等を対象に、毎日着ている「服」を通して持続可能な社会について楽しく学ぶ、体験型の環境教育プログラムを実施しています。<br>講座は、自分の服の「タグ」を実際にチェックするゲームからスタートします。こどもたちは「この服はどこで買いましたか？」には答えられますが「どこで作られていますか？」「何の素材でできていますか？」という質問にはなかなか答えられません。身近な疑問を手がかりに、ファッションが環境や世界に与えている影響を分かりやすく紐解きます。また、クイズやグループでの発見を交えながら、日々の生活の中で自分たちができるエコな工夫やアクションを前向きに考えるきっかけづくりを行います。                                                                                                                                                                                                    | —                                                                                                 |
| 24  | laoculture.jp (Lao Fashion Week Japan) | LOCAL TEXTILEから広げる「価値ある一着」を長く着る文化      | laoculture.jp（Lao Fashion Week Japan）は、ラオスの伝統的な繊維素材と日本のデザイン・技術をつなぎ、素材の産地、作り手、制作背景や文化的価値を伝えることで、衣服を「価値ある一着」として長く大切に着る意識の醸成に取り組めます。<br>2026年3月に日本記者クラブホールで開催した「LAO FASHION AND CULTURE FESTIVAL IN TOKYO」では、「LOCAL TEXTILE」をテーマに、ラオスのデザイナー12名と日本人デザイナー3名によるコレクションと伝統工芸の展示を実施しました。今後もLao Fashion Week、日本国内での展示・イベント、Web・SNS等を活用し、衣服の素材・産地・職人・制作プロセスを継続的に発信します。日本とラオスのデザイナー、素材関連企業等との連携も広げ、地域の繊維文化の継承と、流行や価格だけでなく背景や品質を踏まえて長く愛用する衣服選びを促す普及啓発を進めます。目標として、今後実施する主要イベントごとに、素材・産地・作り手の背景を伝えるコンテンツを組み込みます。                | <a href="https://www.laoculture.jp/lfft">https://www.laoculture.jp/lfft</a>                       |
| 25  | 一般社団法人Re-Creation                      | 認証と共創で広げるサステナブルな選択                     | 一般社団法人Re-Creationは、ファッション産業における環境・社会課題への企業・ブランドの取組を製品単位で可視化し、生活者の選択基準として伝えるサステナビリティ認証プロジェクトを運営しています。雇用倫理、資源循環、ロングライフ、動物福祉等の基準により企業・ブランドの取組を確認し、認証ラベルやWeb、SNS、イベントを通じて一着の背景や価値を生活者へ伝えています。生活者における認証の認知・理解を高め、認証取得企業・製品の拡大を通じて、サステナブルな選択肢を社会に増やすことを目指します。今後は、多様な専門性を持つ「Re-Creator」とともに、①衣替えを起点とした生活者アンケートと行動発信、②リペア・リユース・回収拠点等を可視化するMAP、③商品の機能や品質を長く使える理由として伝える販売員向け接客ワード集などの企画を進めます。これらの取組を通じ、サステナブルな選択を一部の人だけの「正解」ではなく、日々の暮らしの中で自然に選べる行動に変えていきます。得られた生活者の声や課題は、認証制度や企業への提案、行政・他団体との連携に生かします。                     | <a href="https://re-creation.or.jp/help/re-creator">https://re-creation.or.jp/help/re-creator</a> |
| 26  | 一般社団法人リデザインプロジェクト                      | 地域に根ざし、世界につながる、誰一人取り残さないエシカルデザインプロジェクト | 愛知県及び近県を中心に、企業等で活用されずに眠る生地や製造工程で生じる端材などの未利用繊維素材を廃棄せず、新たな商品へアップサイクルしています。提供素材を活用してデザインを学ぶ学生が作品を制作し、コンテストで選出された作品を障がい者就労支援施設等で商品化し、地域の小売店舗等で販売する、地域連携型の「ものづくりの循環」を構築しています。<br>目指すのは、未利用素材を単に「捨てない」だけでなく、「地域の中で次の価値へつなぐ」ことです。資源循環に、若者の感性・アイデア、障がい者の就労機会、企業・団体の技術や資源、消費者の共感を結び付け、エシカル消費を地域で具現化しています。<br>環境省中部環境局の後援を受け、コンテストには「中部環境局長賞」も設けられています。企業・学校・福祉・行政・小売等が強みを持ち寄る地域共創モデルとして、今後は活用素材、連携先、商品展開を広げ、資源と価値が地域で循環する持続可能な仕組みとして定着・発展させていきます。                                                                         | <a href="https://redesign-project.com/">https://redesign-project.com/</a>                         |

| NO. | 参加団体名  | 事例タイトル                      | 取組概要及び目標設定等並びに今後取組予定の事業                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 取組概要（URL）                                                                                                                                                   |
|-----|--------|-----------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1   | いわき市   | リユース啓発の取り組み（循環型ライフスタイル支援事業） | いわき市では、3 Rを推進・啓発するための独自事業「循環型ライフスタイル支援事業」を令和7年度より実施しており、サステナブルファッションを啓発するための動画制作や、地元事業者と連携し市内イベントでの古着回収活動を行っています。令和8年度においては、リユースの取り組みを含めた啓発イベントの継続開催をはじめ、株式会社ジモティーとのリユース協定の締結をもとに、市内にジモティースポットいわきをオープンし、まだ使える不要品の回収と併せて、衣服の回収及び譲渡・販売を通して、モノを繰り返し使うリユースの推進・啓発を行ってまいります。                                                                                                                                                              | <a href="https://www.city.iwaki.lg.jp/www/contents/1785139303909/index.html">https://www.city.iwaki.lg.jp/www/contents/1785139303909/index.html</a>         |
| 2   | 埼玉県    | 衣料品のサーキュラーエコノミー推進           | 本県は、環境省のアクションプランに連動し、家庭から手放される衣類の2020年度比「25%削減」への貢献を目標に掲げ、サステナブルファッションを推進します。具体的には、衣類を資源として手軽に手放せる回収体制の整備と、環境配慮設計やリユース・リサイクルなどに取り組む企業の支援を行います。2025年度より、県内のサステナブルファッション普及に資する取組として、衣料品展示や企業マッチング企画を通じた普及啓発とビジネス支援を実施しています。2026年7月には「市町村回収拠点マップ」を県HPにて公開し、地域の生活者へ積極的に周知・活用し、家庭に眠る衣類の回収を促進しています。今後の取り組みとして、10月に衣料品展示イベントの実施による生活者の意識変容の促進や、企業マッチング会の開催による衣料品関連事業者の連携・ビジネス機会の創出を後押しします。これらの活動を通じて、衣類を資源として循環させる広域的なネットワークの構築に貢献してまいります。 | <a href="https://www.pref.saitama.lg.jp/a0812/fashion/2025circular_fashion.html">https://www.pref.saitama.lg.jp/a0812/fashion/2025circular_fashion.html</a> |
| 3   | 群馬県富岡市 | 衣類のリユースを推進してます              | 2か所の市有施設に回収ボックスを置き、不要になった衣類（雑貨類も含む）の回収を行っています。専門業者に引渡してリユース（またはリサイクル）につなげています。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | <a href="https://www.city.tomioka.lg.jp/www/contents/1766108684835/index.html">https://www.city.tomioka.lg.jp/www/contents/1766108684835/index.html</a>     |
| 4   | 名古屋市   | 衣類の資源循環の取組を推進しています！         | 名古屋市では衣類の資源循環の推進に向け、事業者との連携による衣類回収ボックスの設置や集団資源回収活動への支援など、回収環境の整備に取り組んでいます。また、若者を対象とした衣類循環イベントへの支援やワークショップの開催などを通じて、サステナブルファッションの普及啓発に努めています。本市の衣類の資源化率は低い水準で推移していますので、今後も様々な取組を実施し、衣類の資源循環を進めていきたいと考えています。                                                                                                                                                                                                                          | <a href="https://circular.city.nagoya.jp/">https://circular.city.nagoya.jp/</a>                                                                             |
| 5   | 福岡県宗像市 | サステナブルファッションの実践             | 宗像市では、通年エコスタイルの導入や服の交換会の開催をはじめ、サステナブルファッションに関連する取組を推進しています。2050年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロにする「ゼロカーボンシティ」の実現に向け、今後も官民連携で様々な取組を実践していきます。                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | <a href="https://www.city.munakata.lg.jp/kiji0039145/index.html">https://www.city.munakata.lg.jp/kiji0039145/index.html</a>                                 |

その他

1件

| NO. | 参加団体名    | 事例タイトル               | 取組概要及び目標設定等並びに今後取組予定の事業                                                                                                                                                                   | 取組概要（URL） |
|-----|----------|----------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|
| 1   | 信州大学繊維学部 | サステナブルファッションの推進・普及啓発 | 繊維に関する教育・研究及び産学官連携の知見を活かし、サステナブルファッションに関する国内外の動向や先進事例、環境負荷低減、資源循環等に関する情報を収集するとともに、セミナーやイベント等を通じた情報発信・普及啓発を行う。また、企業、自治体、教育・研究機関等との情報交換・連携を促進し、持続可能な繊維・ファッション産業の発展及び環境や社会に配慮した消費行動の促進に貢献する。 | ー         |